

米国ニューメキシコ州サンタフェ大司教区、ジョン・C・ウェスター大司教の司牧書簡

キリストの平和の光の中で生きる

(Living in the Light of Christ's Peace)

核軍縮のための対話

原文 (Original Text)

<https://www.archdiosf.org/living-in-the-light-of-christs-peace>

「わたしの平和をあなたがたに与える」
(ヨハネ 14:27)

© 2022 Most Reverend John C. Wester
Archbishop of Santa Fe
4000 St. Joseph's Pl NW
Albuquerque, NM 87120
www.archdiosf.org

本文掲載の作品 (Artwork):

平和の歌 (SONG OF PEACE),

© 2020 by ジョン・オーガスト・スワンソン (John August Swanson),
Poster 13" × 19"
www.JohnAugustSwanson.com

銃を打ち壊すキリスト (CHRIST BREAKS THE RIFLE),

by オットー・パンコック (Otto Pankok).

サンディアのサルバドール (NUESTRO SALVADOR DE LAS SANDIAS),

© by ウィリアム・ハート・マクニコルズ神父 (Fr. William Hart McNichols),
<http://frbillmcnichols-sacredimages.com>

光の祭典:核兵器反対 (FESTIVAL OF LIGHTS : ANTI-NUCLEAR WEAPONS),

© 2015 by ジョン・オーガスト・スワンソン (John August Swanson),
Poster 13" × 19"
www.JohnAugustSwanson.com

サンディアの聖母マリア (NUESTRO SEÑORA DE LAS SANDIAS),

© by ウィリアム・ハート・マクニコルズ神父 (Fr. William Hart McNichols),
<http://frbillmcnichols-sacredimages.com>

[©“アッシジの聖フランシスコ (ST. FRANCIS OF ASSISI)”

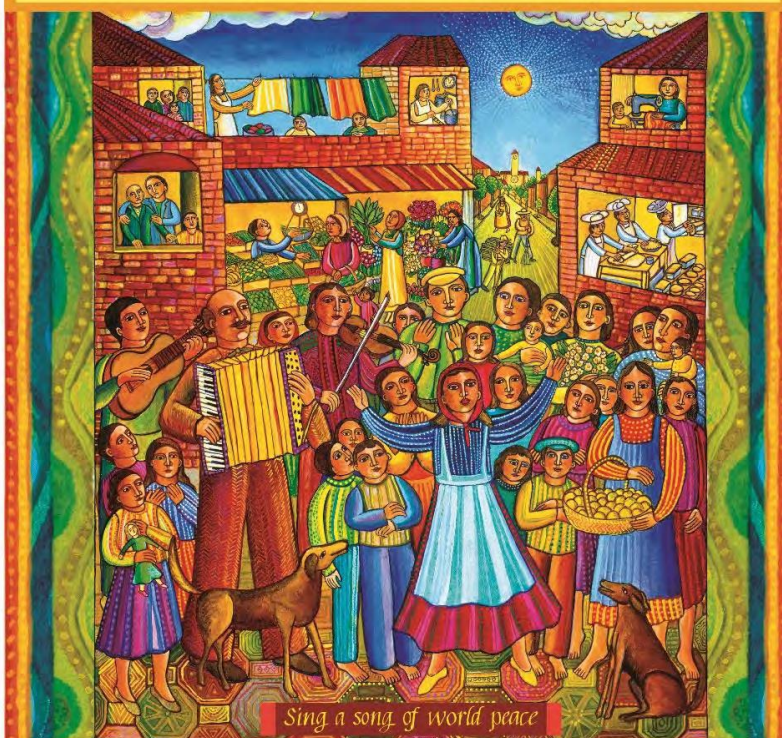
by ミッキー・マクグラス修道士 (Br. Mickey McGrath, OSFS),
トリニティ・ストアーズ (Trinity Stores) 提供,
www.trinitystores.com,
800.699.4482]

キリストの平和の光の中で生きる

(Living in the Light of Christ's Peace)

核軍縮のための対話

In a single plea to God and to all men and women of good will, on behalf of all the victims of atomic bombings and experiments, and of all conflicts, let us together cry out from our hearts:



NEVER AGAIN WAR,
NEVER AGAIN THE CLASH OF ARMS,
NEVER AGAIN SO MUCH SUFFERING!
MAY PEACE COME IN OUR TIME
AND TO OUR WORLD.

-Pope Francis, Peace Memorial (Hiroshima), Sunday, 24 November 2019

Poster and Art, STREET SINGER, 1998, by John August Swanson, 2020

神に向け、すべての善意の人に向けて、一つの願いとして、
原爆と核実験とあらゆる紛争のすべての犠牲者の名によって、
心から声を合わせて叫びましょう。

戦争は二度と繰り返しません、
兵器の轟音は二度と繰り返しません、
こんな苦しみは二度と繰り返しません、と。
わたしたちの時代に、わたしたちのいるこの世界に、平和が来ますように。
(教皇フランシスコ、2019年11月24日、広島平和記念公園)

目次

はじめに	
広島からニューメキシコまで、キリストの平和への旅路	5
第1部	
平和の作り手になるようにという呼びかけ：教皇フランシスコ、教会、福音の教え	9
第2部	
継続する破壊的な核脅威：なぜ核兵器を廃絶すべきか	19
第3部	
暗闇に住む民は大きな光を見た：唯一かつ現実的な代案は核軍縮	26
第4部	
進むべき道：省察、対話、そして行動	32
おわりに	
キリストの平和の光の中で生きる	35
聖フランシスコの祈り	38
書簡の要約	39
付録1	
研究、省察、行動のためのいくつかの提案	40
付録2	
個人的省察とグループでの議論を助ける質問	44
参考文献	45
注釈（原注）	47

はじめに

広島からニューメキシコまで、キリストの平和への旅路

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、

2017年9月、私は日本を旅しながら、広島と長崎を訪問しました。1945年8月6日、人類が核時代という闇の中へ一線を越えてしまったという事実に気づいたことは、暗鬱でありながらも目の覚めるような経験でした。私たちは今や数十億人を一時に殺戮し、ひいては一瞬で世界中を破壊することができます。広島と長崎を歩きながら、この邪悪な現実を実感することができました。

ある展示館で、1945年8月のその運命の朝に、広島の生徒たちがまばゆい光に引き寄せられて窓へと走っていったという話を読みました。私はどれだけ多くの人が一瞬にして火に焼かれたり、ひどい苦痛の中で死んでいったりしなければならなかっただろうかと思いましたが。普通、光は新しい人生とより明確な視野をもたらします。しかし、その日はそうではありませんでした。悲しいことに、戦争に使われた最初の核爆発で生成された光は、破壊と死をもたらしました。



図1:原爆投下後の広島

1962年10月のキューバのミサイル危機の際、私が少年だった時を覚えています。学校帰りに、数機のロシア飛行機が原子爆弾を投下するのではないかと思い、空を見上げた覚えがあります。とても怖くて、家まで走って帰りました。しかし、日本の生徒たちは恐れる時間さえありませんでした。彼らには逃げる時間も逃げる家も残っていませんでした。広島平和記念公園を横切って、焼け落ちた原爆ドームの前に

立った時、私は今まで核戦争の可能性が現実になるとは思ってもおらず、核の脅威に対する恐怖も感じなかったことに気づきました。子どもの頃、核戦争に備えて机の下に隠れたり、最寄りの防空壕を探す練習をしたりしたことがぼんやりとした記憶として残っていましたが、広島と長崎がそういう記憶をよみがえらせました。

私がニューメキシコに戻ってきてから一日か二日後、友人数人がサンタフェに私を訪ねてきました。私は友人たちをニューメキシコ歴史博物館に連れて行きました。そこで私は、違った物語のある違った展示館を見たのです。広島と長崎についての記憶が鮮明に残っている状態で、私は、マンハッタン・プロジェクト (Manhattan Project)^{訳注ⁱ}、ロスアラモス国立研究所 (Los Alamos National Laboratory) とサンディア国立研究所 (Sandia National Laboratory) の発展過程、そして、ついには広島と長崎に投下されてしまった核

ⁱ 第二次世界大戦中に (1942年から1946年まで) アメリカが主導し、イギリスとカナダが共同で参加した核爆弾開発プログラムである。戦争中に二種類の核爆弾が開発されたが、一つはウラン235を弾頭として使用した砲身型核分裂兵器であり、もう一種類はプルトニウムを弾頭とした内爆型核爆弾であった。爆弾の開発と製造はニューメキシコ州にあるロスアラモス研究所で行われた。

爆弾が作られるようになった経緯に関する資料を読みました。この展示物を、日本を訪問する前に見たときとはまったく異なる仕方で見たとです。つい数週間前に見た、実際に広島と長崎に投下された爆弾に付けられた別称「リトルボーイ」と「ファットマン」ⁱⁱの写真を見るだけでぞっとしました。その爆弾が日本の兄弟姉妹に何をしたのかわかっていたからです。

友人と私が、私たちの美しい都市の郊外に出かけた時、この都市がどれほど平和なのかわかるようになりました。アッシジの聖フランシスコの聖なる信仰、この世におけるキリストの平和の道具となるように彼を鼓舞した信仰の都市サンタフェは、平和の聖母、ヌエストラ・セニョーラ・デ・ラ・パス

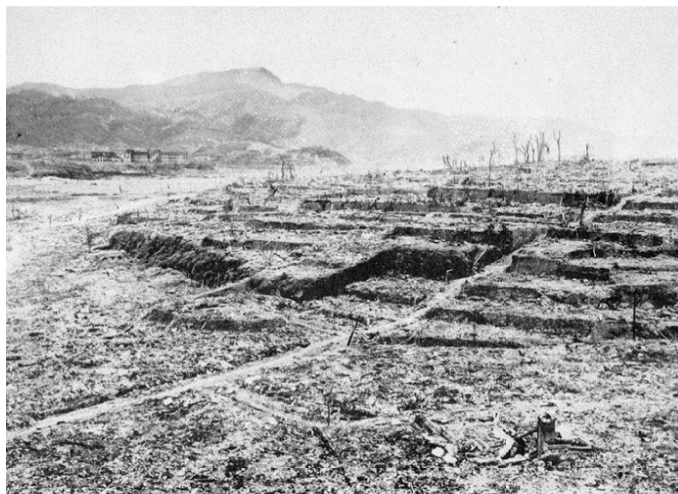


図2: 原爆投下後の長崎

(Nuestra Señora de la Paz) の故郷です。しかし、私たちの都市の歴史、広島と長崎の爆弾を作り出した長くて暗い遺産、そしてそれ以降製造された数千個の核兵器を考えると、非常に心が乱れました。私たちこそがこの大量破壊兵器を設計して作った人々なのです。初めてそれを使った人たちなのです。だから、まさに私たちが核兵器を解体する人となり、二度とそれらが用いられないようにしなければならぬのです。



図3: 破壊された浦上カトリック教会で発見された、「長崎の被曝マリア」

サンタフェでのその日、すべてのものが主の平和の中で生きるように世話し養うようにと、神が私たちに与えた共通の家である地球を破壊する潜在力を持つ兵器を作ったということが、私には冒流のように感じられました。サンタフェ大司教区は強力な平和のイニシアティブの一部でなければなりません。これらの兵器が二度と使われないようにすべきです。兵器が地球や私たちを破壊してはならず、その代わりに汚染された土地を浄化し、対話や交渉のような非暴力的な手段を通じて、すべての国際紛争を解決するグローバルな機関の基金援助をしなければならぬということが私の中で明確になりました。

ⁱⁱ 歴史上初の核爆発実験であるトリニティ実験が行われた（1945年7月16日）後、2種類の核爆弾が作られた。砲身型核爆弾には「リトルボーイ (Little Boy)」、内爆型核爆弾には「ファットマン (Fat Man)」という名前が付けられた。アメリカ国防総省は、広島と長崎に核爆弾の投下を決定した。1945年8月6日、「リトルボーイ」が広島に投下され、8月9日には「ファットマン」が長崎に投下された。

歴史的に、サンタフェ大司教区は平和のイニシアティブの一部でした。特に、核兵器の開発と製造に対する私たちの役割を考えると、なおさらです。私は今こそそのような平和活動を回復しなければならない時期だと信じています。私はニューメキシコ州で、またアメリカ全域にわたって核廃絶に対する真摯な対話を続けなければならないと思います。私たちは、これ以上自分たちに与えてきた危険な苦境を否定したり無視したりすることはできません。私たちはこのことについて、お互いに話し合いを始めるべきです。核兵器を廃棄し、核の脅威を終息させるための具体的な措置を講じなければなりません。私たちが人類を、地球を、平和と主を愛するなら、このような緊急問題に対する開かれた対話を始め、核廃絶のための新しい道を探さなければなりません。

文章と証言から、このような重大な対話に参加した多くの人々を見つけることができました。ネバダ核実験場で50年以上にわたって平和の徹夜運動を組織し、非暴力市民不服従行動に参加して核廃絶のために声を上げてきたサンタバーバラ管区の元フランシスコ会所属のルイ・ヴィターレ神父 (Father Louis Vitale, OFM) を思い出します。ヴィターレ神父は、靈性に重点を置き、非暴力的な生活のための教育プログラムを開発する組織「パーチェ・エ・ベネ (Pace e Bene)」の創立者の一人です。

また、私はテネシー州オークリッジの核兵器施設に入って核廃絶を要求した疑いで、連邦刑務所で数年の受刑生活を送り、2021年に91歳で死亡したメーガン・ライス修道女 (Sister Megan Rice) を思い出します。広く知られているように、メーガン修道女は収監中に、アメリカの広島と長崎への爆弾投下を「歴史上最大の恥」と主張しました。メーガン修道女は、自分の唯一の罪といえば、70歳になって初めて公に核兵器に反対する声を上げ、行動を取ったことだと言いました。

その他にも、世界中に平和のために声を上げた驚くべき預言者的な人々があります。この書簡で、私は皆さんに、平和のために新たに身を投じるよう、特に世界的に核廃絶につながる活発な対話に参加することを呼びかけます。私たちが実行しなければ、誰が行動するのでしょうか。今でなければ、いつ行動するのでしょうか。第二次世界大戦中、ディートリッヒ・ボンヘッフアー (Dietrich Bonhoeffer) は、「悪の前で沈黙すること自体が悪である。神は私たちが罪なき者であるとは思わないだろう。言わないことは言うことなのだ。行動しないことは行動することなのだ」¹と言いました。持続的に核戦争を準備するのを見て、後ろ向きに座り込んで沈黙することはできません。これからどうすれば核兵器を廃棄し、二度と使用しないようにするかについて話し合わなければなりません。

私は、この書簡でニューメキシコ州とアメリカ全域でそのような対話が行われることを要請します。いつか私たちがこのような兵器を作ることを中断し、アメリカと全世界で武装を解除し、核の脅威という憂慮と恐怖のない新しい未来に進むことを希望しながら、私の考えと憂慮を伝えるために、平和の精神で祈りながら作成したこの省察の書簡を出します。

私は第二バチカン公議会と他の教皇たち、そして米国カトリック司教協議会が出した文書だけでなく、フランシスコ教皇が最近広島と長崎を訪れたこと、そして教皇が最近出した核廃絶の要求を省察します。私は、平和の君であり、私たちに平和を作り出す人になるように呼びかけ、汝の敵を愛せよと言ったイエスの教えと手本を深く考察したいのです。核兵器の現在の状況について、なぜ私たちが今すぐ非核化の過程を始めなければならないのかについて省察し、私たち皆が取ることができるいくつかの解決策と具体的な措置を提案します。

私はこの州全体での対話が、核廃絶に向けた道を作るのに役立つ全国的で国際的な対話の一部になることを希望します。私は平和の神に祈り、核廃絶という贈り物を求めるよう皆さんを招きます。平和にお互いを見つめ合いながら、依然として開発されている核兵器について、また核戦争の準備作業をどのように終息させるかについて話し合い、耳を傾けなければなりません。私は皆さんをキリストの光の中に入るように、平和の新しい未来、平和という新しい約束の地、平和と非暴力の新しい文化に向かって一緒に歩いていくように招きます。そのような文化の中で私たちは美しい惑星、私たちの共通の家である地球の姉妹兄弟として、平和に生きる方法を学ぶことができるでしょう。



わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。

(ヨハネ 14:27)

第一部

平和の作り手になるようにという呼びかけ —— 教皇フランシスコ、教会、福音の教え ——

ここ数年の間、教皇フランシスコは、カトリック教会が核兵器と核抑止力を支持する態度から、核兵器は非道徳的であると非難し、核兵器の完全な廃棄を要求する態度へと変わる劇的な変化を導き出しました。2017年に教皇フランシスコは、核抑止力は「道徳的に容認できない」と公式に宣言しました。この宣言は、「核兵器のない世界と統合的軍縮の展望」についての、統合的人間開発を促進するバチカン（教皇庁）の部門の国際シンポジウムでなされたものです。

2019年11月24日、教皇フランシスコは広島と長崎を訪れ、原子爆弾の生存者に会い、核廃絶のために祈りました。教皇は、核兵器は今日起こりうる「死と破壊のブラックホール」と情熱的に説き、「核兵器のない世界」を作っていこうと要請しました。教皇は「戦争のために原子力を使用することは、現代においては、これまで以上に犯罪とされます。人類とその尊厳に反するだけでなく、わたしたちの共通の家の未来におけるあらゆる可能性に反する犯罪です。原子力の戦争目的の使用は、倫理に反します。核兵器の保有は、それ自体が倫理に反しています」²と付け加えました。

追悼式において長崎のすべての原爆犠牲者のために献花した後、教皇は核兵器競争が誤った安全意識を生み出し、国際関係を汚染すると宣言しました。また、これらの兵器は資金を浪費することであり、環境的にも害悪を作り出すと主張しました。フランシスコ教皇は、「今日の世界では、何百万という子どもや家族が、人間以下の生活を強いられているにもかかわらず、武器の製造、改良、維持、商いに財が費やされ、築かれ、日ごと武器は、いっそう破壊的になっています。これらは天に対する絶え間のないテロ行為です」とし、このように付け加えました。

核兵器のない世界が可能であり必要であるという確信をもって、政治をつかさどる指導者の皆さんにお願いします。核兵器は、今日の国際的また国家の安全保障に対する脅威からわたしたちを守ってくれるものではない、それを忘れないでください。人道的および環境の観点から、核兵器の使用がもたらす壊滅的な影響を考えなくてはなりません。核の理論によってあおられる、恐れ、不信、敵意の空気の増幅を止めなければなりません。³

フランシスコ教皇は、2か月後の2020年1月、すべての国に核兵器のない世界を作ることになり出すようにと求めました。教皇の訴えは、核兵器禁止条約（Nuclear Weapons Ban Treaty）として知られる条約より2日前に出されました。この条約は、署名国が核兵器を開発、実験、生産、備蓄、保管、移転、使用、そして使用すると威嚇など、あらゆる活動を禁止する最初の法的拘束力のある国際協定です。教皇は核兵器の無差別的な影響に触れ、「核兵器は短期間で非常に多くの人を攻撃し、環境には長期的な被害を誘発する」と述べました。教皇はすべての国家と国民に対し、「核兵器のない世界を作るのに必要な条件を増進するために努力すること」を頼みました。そのための最善の方法は、「人類に最

も必要な平和と多国間協力の進展に献身すること」と述べました。

フランシスコ教皇は、2020年8月6日の日本核攻撃75周年の記念日に再び「核兵器をこの世界から完全に無くすために尽力し、祈る」⁴ように促しました。

フランシスコ教皇は広島と長崎を訪問して核廃棄を強く促しながら、核廃絶に関する世界的な対話を始めました。私はニューメキシコにいる皆さんにも、その対話を続けることを要望します。核兵器を製造することを止め、武器庫を解体し、世界から核兵器を除去するためにできる役割を果たしてほしいのです。

教会はこれまで数十年間、核兵器と核戦争の脅威を非難してきました。核廃棄と不拡散への支持は、戦争と平和に対するカトリックの社会教説に確固たるものとして根付いており、教皇聖ヨハネ23世、第二バチカン公議会文書、教皇聖パウロ6世、教皇聖ヨハネ・パウロ2世、教皇ベネディクト16世と、最近では現教皇フランシスコによって強調されてきました。

1962年のキューバミサイルの危機のわずか一年後、教皇聖ヨハネ23世は1963年に出した回勅『地上の平和 (Pacem in Terris)』で、他国との関係を探求するために「時のしるし (Signs of the Times)」を読まなければならないと述べ、アメリカが広島と長崎に核爆弾を投下した後も続いてきた軍備競争を省察しました。聖ヨハネ23世は、軍備競争の破壊的な結果に注目し、核兵器禁止とともに相互信頼に基づいた恒久的な平和があってこそ軍備競争が終息するだろうと促しました。彼は次のように述べました。

核兵器は禁止されなければなりません。……軍備の均衡が平和の条件であるという理解を、真の平和は相互の信頼の上にしか構築できないという原則に置き換える必要があります。

『地上の平和』112 (日本語版では60-61)

……経済が発展した政治共同体において、恐るべき軍備がすでになされており、またそれがたえず進められていることを見るのは、きわめて悲しいことです。これには、精神的なエネルギーと経済的資源が非常に高い割合で費やされていますし、これらの政治共同体に属する国民は、重い犠牲を強いられています。同時に、そのために、他の政治共同体は、経済的、社会的発展に必要な協力を得られない状態になっています。……正義、英知、そして人間の尊厳の尊重のためには、軍備競争に終止符が打たれること、……核兵器が禁止されること……が切実に要求されます。……軍備の均衡が平和の条件であるという理解を、真の平和は相互の信頼の上にしか構築できないという原則に置き換える必要があります。⁵

一年後の1964年、第二バチカン公議会の文書である『現代世界憲章 (Gaudium et Spes)』は、私たちの信仰に照らして、軍備競争のように世界が直面している現在の問題に教会がどのように相互作用すべきかを省察しました。国家間の平和、莫大な戦争兵器に消耗する費用、そして戦争が私たちの中で最も貧しい人々に及ぼす影響を探索しながら、『現代世界憲章』は次のように述べています。

……多くの国が行っている軍拡競争は平和を確保するための安全な道ではなく、それから生じるいわゆる力の均衡も、確実に真実な平和ではないことを確信すべきである。それは、戦争の原因を取り除くどころか、徐々に増大するよう脅か

す。つねに新しい兵器を準備するために莫大な富が費やされているのに対し、今世界中にはびこっている悲惨をいやすためには十分な対策を講じえないでいる。……軍拡競争は人類にとってもっとも重い傷であり、貧しい人々を耐えがたいほどに痛めつけるものである。⁶

教皇聖ヨハネ・パウロ2世は、1981年2月、広島にある国連大学の科学者たちに行った演説の中で、広島と長崎に加えられた傷がどのように人類に深く影響するかについて述べました。教皇は「核兵器による絶滅の危機にさらされた、この惑星上における我々の未来は、ある一つの要素にかかっています。それは、人類は道徳的転換を実行しなければならぬということでありませう」⁷と述べました。

教皇聖ヨハネ・パウロ2世は1982年に国連総会で演説し、軍拡競争に対する教会の教えは一貫して明確だったと言及しました。そして、教皇は次のように付け加えました。

第二次世界大戦が終わり「原子時代」が始まってから、教皇庁とカトリック教会の態度は明らかになりました。教会は絶えず平和に貢献し、紛争を解決するために、戦争に頼らない世界を建設しようと努力してきました。国際的に相互信頼と協力という風土を維持することを奨励してきました。平和の保障に役立つ仕組みを支持してきました。戦争の惨憺たる結果に対しても関心を引き起こしました。新しく致命的な破壊手段が発達し、戦争はそれに関与する危険を表わしていますが、即刻的な危険を超え、協力、相互信頼、兄弟愛と平和を築くためにどのような価値を発展させるべきかを指摘してきました。……第二バチカン公議会とそれ以降のすべての教皇は自分の信念を表明し続けてきましたが、それぞれの信念を軍備と兵器の統制状況を変化させ、発展させることに導入しました。[カトリック教会は] 軍拡競争について嘆いてきましたし、兵器の誤用に対するより大きな安全装置だけでなく、相互進歩的で検証可能な軍縮を要求しました。すべての国の独立と自由、そして合法的な安保の尊重を求めてきました。……カトリック教会の絶え間ない憂慮と持続的な努力は、全般的かつ検証可能な武装解除が行われるまで、すべての人の心が持続的な平和を保障する倫理的選択に導かれるまで止まらないでしょう。⁸

1983年、アメリカとソ連の冷戦と第二次世界大戦後の核兵器競争を念頭に置き、アメリカの司教たちは『平和の挑戦 (The Challenge of Peace)』という司牧書簡を出しました。この書簡は当時、アメリカの核政策にカトリックの教えを適用する一つの地図を提供しました。司教たちは「アメリカの抑止力政策を再考し、核戦争発生の可能性を減らすために、そしてより安定的な国内と国際安保体制へと移行するためには、相当の知的、政治的、倫理的努力が必要である」⁹と表明しました。

……カトリック教会の絶え間ない憂慮と持続的な努力は、全般的かつ検証可能な武装解除が行われるまで、すべての人の心が持続的な平和を保障する倫理的選択に導かれるまで止まらないでしょう。

教皇聖ヨハネ・パウロ2世、1982年

アメリカの司教たちは1993年、冷戦後の世界での平和構築に関する声明である「義の実

は平和のうちに蒔かれる (*The Harvest of Justice is Sown in Peace*)」を通じて、戦争と平和に対する省察を続けました。司教たちは「アメリカの司教として私たちは以前にも似たような訴えを続けた。倫理的任務はこれらの兵器を大幅に削減し、最終的には完全に廃棄することである」¹⁰と述べました。

教皇ベネディクト16世は、2006年1月1日、「平和は真理のうちに (*In Truth, Peace*)」と題した世界平和の日のメッセージにおいて、核兵器とそれが提供する誤った安全保障意識について、次のように述べました。

いまだに兵器の生産や新兵器の研究開発への投資が進んでいる中、どうして平和に未来があるといえるのでしょうか？ 国際社会が勇気と知恵をもう一度取り戻し、あらためて毅然とした決意と協力によって軍縮を推進し、すべての個人と国民がもつ平和への権利を具体的に保障してくれることを願うばかりです。¹¹

いまだに兵器の生産や新兵器の研究開発への投資が進んでいる中、どうして平和に未来があるといえるのでしょうか？

教皇ベネディクト16世

ベネディクト教皇は続けて述べています。国家が平和を維持するために核兵器が必要だという概念は、「破滅を招くだけでなく、まったくの偽りだということです。実際、核戦争では勝者などなく、

すべての人が犠牲者となるからです。平和の真理がすべての政府に求めているのは、公然と、もしくは秘密裏に核兵器を保有しているか、核兵器の保有を計画しているかにかかわらず、明確で強固な決断をもって進路を変更し、段階的で協調を伴う核武装解除に努力することに合意することです。こうして節約される資源は、すべての人、とくに貧しい人のための開発プロジェクトに充てることもできるはずです。」¹²

教皇ベネディクト16世は、2010年5月5日に行われた一般謁見演説の中でも、「核軍縮を一致して確実に進めることは、これに関連する国際的義務の完全で迅速な履行と密接に結びついています。実際、平和は、力の均衡だけでなく、信頼と、自らが引き受けた義務の尊重に基づいています」¹³と述べました。

2020年2月14日、米国カトリック司教協議会の国際正義と平和委員会が提出した核廃絶に関する声明は、核脅威について言及したフランシスコ教皇の努力を確認します。「フランシスコ教皇の言葉は、相互破壊の脅威に安住する国際関係の現状維持の態度 (*status quo*) が変わらなければならないという事実を、すべての人々に悟らせる明快な要求である。アメリカの司教として、私たちは以前にも似たような訴えをしたことがある。倫理的任務はこれらの兵器の大幅な削減を進めることであり、究極的には完全に廃棄することである。」¹⁴

回勅『兄弟の皆さん (*Fratelli Tutti*)』(2020年10月)で教皇フランシスコは、次のように述べています。

国際的な平和と安定は、偽りの安心感、相互破壊や壊滅の脅威、勢力均衡の単なる維持を礎とするものであってはならないのです。……この文脈において、核兵器廃絶の最終目標は、挑戦であると同時に、倫理的、人道的命令でもあるのです。……武器やその他軍事費に使われているお金で、飢餓撲滅のために、そして最貧国の発展のために、国際基金を設立しようではありませんか。¹⁵

数か月前の2021年11月17日に開かれた軍縮会議で、バチカン国務長官ピエトロ・パロリン枢機卿 (Cardinal Pietro Parolin) は、「相互破壊と恐怖の脅威に基づいてはならず、正義と完全な人間発展、人権尊重、創造に対する関心、教育と保健施設の増進、対話と連帯においてその基盤を構築しなければならない」と述べました。パロリン枢機卿は続いて、「核兵器廃絶という究極目標は、一つの挑戦課題であり、道徳的かつ人道的な命令である」と述べ、「実践的なアプローチをするためには、現在多くの論争に浸透している恐怖と孤立主義を乗り越え、平和と安全保障に対する多者間の協力倫理に対する省察を促進しなければならない」¹⁶と強調しました。



オットー・パンコック (Otto Pankok) の作品
銃を打ち壊すキリスト

「今日、イエスの真の弟子になるために」 フランシスコ教皇の平和と非暴力メッセージ

抑止力を暫定的に受け入れる活動から核兵器の全廃を要求する活動に至るまで、カトリック教会の教理の発展を追跡する際、私は核時代を生きていく弟子たちに新鮮で新しい方法として、「非暴力」に照らしてイエスと福音を理解するよう招いたフランシスコ教皇の言葉に注目します。2017年1月1日、50周年を迎えた世界平和の日に、フランシスコ教皇は「非暴力、平和を実現するための政治体制 (*Nonviolence: A Style of Politics for Peace*)」というタイトルのメッセージを発表しました。この歴史的なメッセージで、フランシスコ教皇は世の中の暴力とイエスの非暴力方式について言及し、「積極的な非暴力を私たちの生き方」にしようと促しました。

「暴力に対する暴力の応酬がもたらすのは、強制移住とはかりしれない苦しみだけです」とし、「なぜなら莫大な資源が若者、苦境にある家庭、高齢者、病者をはじめとする世界の大半の人々の日々のニーズを満たすために費やされずに、軍事目的のために使われるからです。最悪の場合、すべての人とはいわないまでも、多くの人々に身体的、精神的な死がもたらされます。」¹⁷

イエスは非暴力の人生を生き、教えられました。フランシスコ教皇は次のように述べています。

こうした現実に対して、キリストのメッセージは、非常に前向きな対応策を示します。イエスは神の無条件の愛、受け入れてゆるす愛をつねに説きました。そして敵を愛し (マタイ5:44参照)、もう一方のほおをも向けるように (マタイ5:39参

照) 弟子たちに教えました。姦通の現場で捕らえられた女に告発者たちが石を投げるのをやめさせたとき (ヨハネ8:1-11参照)、またご自分の死の前夜に、ペトロに剣を納めるように言ったとき (マタイ26:52参照)、イエスは非暴力の道を描いていました。イエスはその道の行き先である十字架まで進み、それにより平和を実現し、敵意を滅ぼしました (エフェソ2:14-16参照)。

フランシスコ教皇は、「今、イエスの真の弟子であることは、非暴力というイエスの提案を受け入れることでもあります」と述べました。フランシスコ教皇は、「敵を愛しなさい」という命令は、「キリスト教の非暴力の『憲章 (マグナ・カルタ)』と考えるとよいものです。キリスト教の非暴力とは、悪に屈することではなく、……むしろ、善をもって悪に対抗することです。こうして不正の鎖を断ち切ることができます」とした教皇ベネディクト16世の言葉を引用しました。

また、フランシスコ教皇は「個人の間と諸国民の間に兄弟愛と平和的共存を求めるといふ倫理は、恐怖と暴力と閉鎖性に根差した考え方ではなく、責任感と敬意と誠実な対話に基づくものです」と述べました。教皇は「わたしは軍縮を求めると同時に、核兵器の禁止と廃止を訴えます。核抑止力と相互確証破壊の脅威は、こうした倫理の根拠にはなりえないからです」と結論付けました。

フランシスコ教皇は、イエスの積極的な非暴力を実践しようという厳粛な要請でメッセージを結びます。

人と人のかかわり、社会における関係、さらには国際的な関係において、愛と非暴力に基づく交わりが行われますように。……地域的、日常的な局面から国際的な秩序に至るまで、非暴力がわたしたちの決断、わたしたちの人間関係、わたしたちの活動、そしてあらゆる種類の政治の特徴となりますように。……積極的な非暴力とは、一致が対立よりもはるかに力強く、実り豊かなものであることを表す一つの方法です。……わたしは積極的で創造的な非暴力のもとに行われる平和構築のあらゆる取り組みに、教会が協力することを誓います。……その活動の一つひとつはささやかなものですが、暴力のない世界を築くために役立つ、正義と平和に向けた第一歩となるでしょう。……わたしたちが自らの思い、ことば、行いから暴力を消し去って非暴力の人となり、自分たちの共通の家を大切にす非暴力的な共同体を築くために、祈りと活動を通して尽力することができますように。

イエスの非暴力を生き直そうというフランシスコ教皇の要請に照らして、私はイエスがどのように非暴力を実践し、ニューメキシコとアメリカ全域で私たちがどのように非暴力を実践できるかについて省察してみます。

「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」

公生活を始める時、イエスは「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じな

今、イエスの真の弟子であることは、非暴力というイエスの提案を受け入れることでもあります。

教皇フランシスコ

さい」(マルコ1:15)とおっしゃいました。ある面でイエスは、暴力と不正義、戦争と帝国の時代が終末に至っていることを話されたのです。私たちはまさに今、ここで神の平和の統治を受け入れ、神の普遍的な愛と非暴力の中で生活するよう招待されました。

真福八端と山上の垂訓(マタイ5-7章)で、イエスは「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイ5:9)と言いながら、私たちに平和を成し遂げる人になって敵を愛するよう命令します。「あなたがたも聞いているとおり、『目には目を、歯には歯を』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。悪人に手向かってはならない」(マタイ5:38-39)。「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである」(マタイ5:43-45)。イエスはこの教えを通じて、神は平和を成す方で、神の息子であり娘である私たちも戦争を起こす人ではなく、平和を成す人たちであると言われます。神は普遍的で非暴力的な愛を行い、私たちも普遍的な非暴力的な愛を行う神の子であるため、普遍的で非暴力的な愛を実践しなければならないとおっしゃったのです。この言葉にはいかなる例外もなく、戦争や「正当な戦争論(just war theory)」に対するいかなる正当化もあり得ません。

イエスは非現実的な理想主義者ではなく、実践的な現実主義者でした。

マーティン・ルーサー・キング牧師

このような教えはとても純粋で非現実的で理想に過ぎないのではないかという疑問を抱く人も多いでしょう。しかし、敵を愛しなさいというイエスの要請に対し、マーティン・ルーサー・キング牧師(Dr. Martin Luther King, Jr.)は、「イエスは非現実的な理想主義者ではなく、実践的な現実主義者でした」¹⁸と言いましたが、とても正確な表現です。

また、キング牧師は次のように述べています。

イエスの戒めの中で、「敵を愛しなさい」という命令ほど従い難いものはないでしょう。ある人は、この戒めを実際に実践するのは不可能だと強く感じています。また、ある人は、敵を愛しなさいというイエスの勧告は、キリスト教徒の倫理が、強くて勇敢な人のためではなく、弱くて卑怯な人のために考案されたものだという事実を証明するものだと主張することもあります。……このような絶え間ない質問と執拗な反対にもかかわらず、イエスのこの命令はかつてないほど緊急に私たちに挑戦します。そしてさまざまな激変の続きは、私たちに現代人類が憎悪という道、つまり滅亡と破滅に追い込む旅程にあるという事実を想起させてくれました。敵を愛しなさいというイエスの命令は、理想主義的な夢想家の敬虔な命令ではなく、生存のために絶対的に必要な条件です。さらに敵に対する愛は、この世の問題を解決する鍵です。……キリスト教徒としての私たちの責任は、この命令の意味を発見し、その命令を私たちの日常生活で情熱的に生きようと努力することです。¹⁹

キング牧師は、敵に対する非暴力的な愛が、今日残されている現実的で政治的な唯一の解決策であることを教えました。たとえ私たちがイエスの戒めを完全に理解できなくても、イエスに従う弟子として、私たちはイエスの教えをニューメキシコとアメリカ全域で

実践しようと努力すべきです。敵を愛するということは、敵に核兵器を投下する準備を含め、彼らを殺すための準備を中断する過程を始めることを意味します。ロシア、中国、イラン、北朝鮮の人々を含め、すべての人を兄弟姉妹と考え、彼らに害悪を及ぼさず、むしろ積極的に愛するためなら何でもしなければならぬということです。

ルカによる福音書(9:54-55)で、イエスが弟子たちに敵を愛するよう命令した直後、弟子たちが敵を殺してもいいのかと尋ねた場面に触れたのは興味深いです。エリヤがそうだったように、弟子たちは敵に天から地獄の火を降らすことを望んでいました。この一節は、今ニューメキシコにいる私たちにとって特に重要です。

イエスは組織的な不正義に対抗するためにエルサレムに向かって進む旅程を始め、ユダヤとサマリアの国境を越えていたところでした。ユダヤ人とサマリア人は憎み合いながら、お互いに激しい攻撃を仕掛けて戦争を繰り広げました。イエスはすべての人を無条件に愛し、弟子たちに敵を愛する方法を見せたかったので、わざと彼らの間を通り過ぎたのです。

途中、あるサマリア人の村は、彼らの怨讐であるユダヤ人が住むエルサレムに向かうという理由でイエスを迎え入れることを拒みました。この言葉を聞いたヤゴブとヨハネはイエスに「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」(ルカ9:54)と尋ねました。イエスは弟子たちに普遍的な愛と創造的な非暴力を実践し、敵さえも愛しなさいと命じましたが、弟子たちは敵を殺そうとしたのです。弟子たちは天から火を求めた預言者エリヤの教えを好みました。

ルカはただ「イエスは振り向いて二人を戒められた」(ルカ9:55)と言います。

イエスは天から地獄の火が降らすことを願った弟子たちを叱りました。イエスはそのような考えをすることさえ禁じました。イエスは報復と戦争を含むあらゆる種類の暴力を拒否します。イエスは弟子たちの間の暴力も認めません。イエスはどんなことがあっても私たちがイエスのように非暴力的で愛する人になることを願っています。私たちに人を殺すことは許されません。

ところが2000年後、私たちはニューメキシコで、天から地獄の火を降らすことを願うだけでなく、実際に地獄の火を注ぐために歴史上最も破壊的な兵器を作り、広島と長崎にいる数万人の兄弟姉妹を殺すためにその兵器を使いました。さらにその後も、私たちは人類全体を破壊できる数万個の核兵器を作りました。私たちは天から地獄の火を降らせたかったヤゴブとヨハネを凌駕しました。私たちは地獄の火を降らす行為をしてきましたし、依然として用意しています。

私はイエスが私たちを叱っていると思います。イエスが天から地獄の火を降らすことを願ったヤゴブとヨハネを叱ったのなら、地獄の火で他人を殺すことを行い、その準備を続けている私たちもきっと叱るでしょう。

イエスの厳しい叱責に耳を傾けなければなりません。核兵器は非暴力的なイエスの意思ではありません。イエスの叱責を真摯に受け止めるべき時期です。耳を傾ければ、イエス

が今日の私たちに叫ぶ声を聞くことができます。核兵器を作りを止めてください。核戦争を準備せず、核兵器を解体し、普遍的な愛と平和の神の国を受け入れなければなりません。

イエスが天から地獄の火を降らすことを願ったヤゴブとヨハネを叱ったのなら、地獄の火で他人を殺すことを行い、その準備を続けている私たちもきっと叱るでしょう。

ジョン・C・ウェスター大司教

イエスは平和に関する対話を始めるために、先に72人の弟子を派遣します（ルカ10:1-12）。「行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに小羊を送り込むようなものだ」。イエスは弟子たちに、各家庭に平和の言葉で慰め、平和の祝福を与え、神の平和の国を宣布せよと言います。後で帰ってきた弟子たちはそのことが叶ったので喜んでいます。弟子たちが従順で平和の使命を果たしたことを見て、イエスも喜んでいました。

エルサレムに近づくと、イエスは泣き出し、「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら……」（ルカ19:41-42）と言います。イエスは暴力と不正義の文化がより大きな暴力を生むことを知っていました。ローマ人が西暦70年にエルサレムに進軍し、その都城を破壊した時、そのことが実現されたからです。今日、核兵器の脅威にさらされている世界がエルサレムです。平和を成し遂げることを学ばなければ、完全な破壊に向かうことになるでしょう。

エルサレムに入ったイエスは、組織的な不正義に対抗するために、神殿で非暴力的かつ直接的な行動をとります。イエスは非暴力的な行為によって逮捕されました。

平和を成し遂げることを学ばなければ、私たちは完全な破壊に向かうことになるでしょう。

ジョン・C・ウェスター大司教

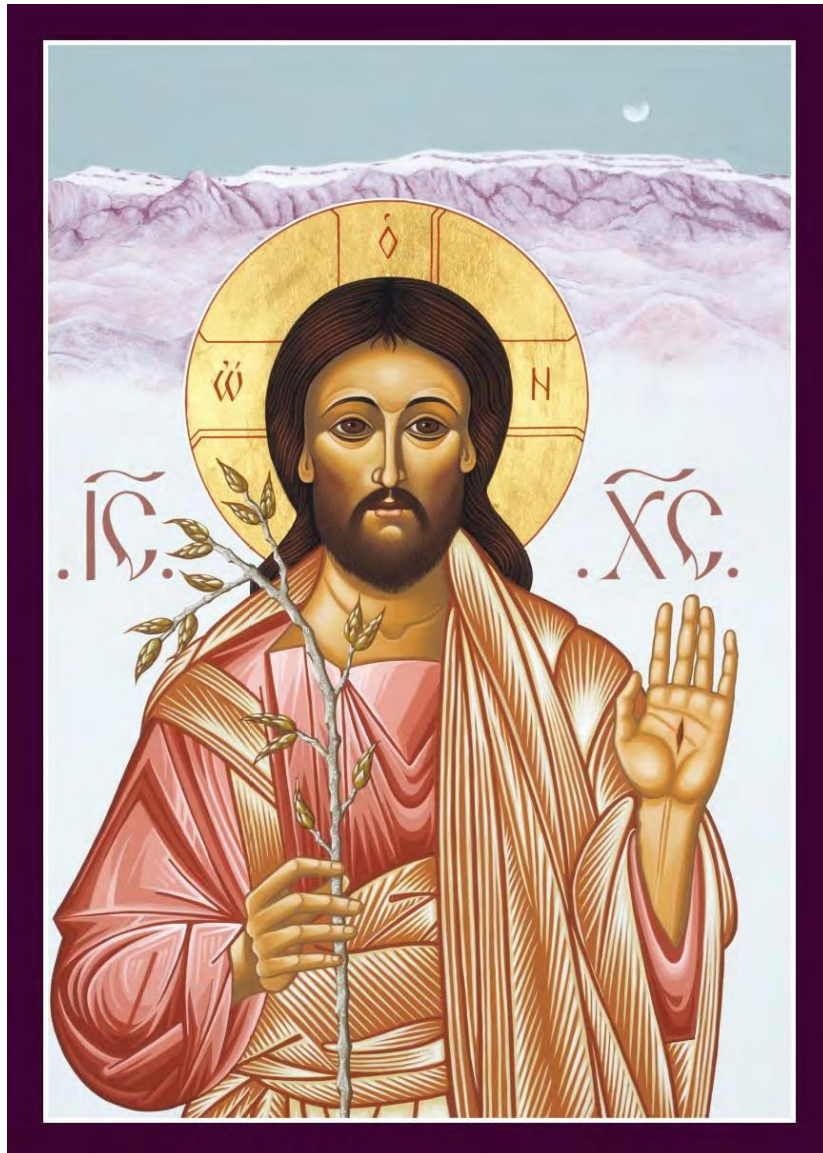
私たちは自らに問うことができます。神殿に横行した暴力にも怒ったイエスが、私たちが製造する核兵器を見れば、いったい何とおっしゃるのでしょうか？

過越の祭りの聖餐式でイエスはパンを取り、「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である」と言っています。また食事を終えてから、杯も同じようにして、「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血である」と言っています。イエスは「行ってわたしのために彼らの体を壊し、わたしのために彼らの血を流しなさい」とは言いません。むしろ「あなたたちのためにわたしの体を捧げてわたしの血を流したように、あなたたちもそうしなさい」と言ったのです。ここでイエスは、非暴力という新しい契約を提示します。聖体祭儀（ミサ）に参加する私たちは、非暴力的なイエスの道を取り、他人を殺すよりも、むしろ自らの苦しみや死を優先させることができるようになります。

ゲツセマネの園でイエスを逮捕するために兵士たちが到着したとき、ペトロがイエスを守るために暴力的に手を伸ばして剣を抜く場面が出ます。ペトロは自分の暴力が正当だと考えています。ペトロが兵士の片耳を切り落とした際、イエスは最後の戒めを下します。「剣をさやに納めなさい」。まさにこの言葉が、イエスが亡くなる前にイエスの共同体と教会に残した最後の言葉であり、弟子たちがイエスから聞いた最後の言葉です。イエスが非暴力に関してどれほど真剣なのかを悟ると、突然弟子たちは皆イエスを見放します。

逮捕、裁判、拷問、処刑に至るまでイエスは非暴力的な態度を維持し、さらに自分を殺した人々まで赦します。イエスは死者の中から生き返った時も相変わらず非暴力です。イエスは復讐や仕返しを求めません。むしろ平和の言葉で友人を迎え、平和と非暴力という使命を遂行するように彼らを再び派遣します。

平和を成す人になり、剣をさやに納めて、すべての人、ひいては民族の敵までも愛することを求める復活したイエス、非暴力的なイエスに従うことがどのような意味なのか、一緒に話し合うように皆さんを招待します。確かに、この命令はニューメキシコで私たちの名前で準備されている暴力に対抗して、核廃棄を始め、誰も二度と天から地獄の火を降らさないようにしようという挑戦の課題です。キング牧師は「手遅れになる前にイエスの言葉に耳を傾けて従うことを望む」²⁰と結論付けました。



サンディアのサルバドール (*Nuestro Salvador de las Sandias*)
©ウィリアム・ハート・マクニコルズ神父 (Fr. William Hart McNichols)
<http://frbillmcnichols-sacredimages.com>

平和を成す人になり、剣をさやに納めて、すべての人、ひいては民族の敵までも愛することを求める復活したイエス、非暴力的なイエスに従うことがどのような意味なのか、一緒に話し合うように皆さんを招待します。

ジョン・C・ウェスター大司教

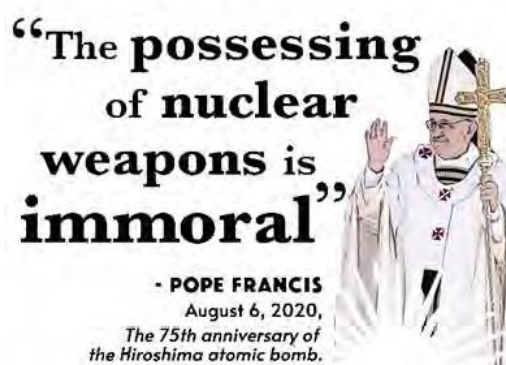
第二部

継続する破壊的な核脅威

—— なぜ核兵器を廃絶すべきか ——

サンタフェのローマ・カトリック大司教区には、環境の守護聖人であり平和と貧しい人々の擁護者である聖フランシスコの「聖なる信仰」という名が付けられています。アッシジの聖フランシスコから教皇名を取ってきたフランシスコ教皇は、核兵器の廃絶を繰り返し求めてきました。しかし皮肉にも、アメリカ政府はすべての司教区、もしかしたら全世界のどこよりも、サンタフェ大司教区内で多くの核兵器を設置するためにお金を使っています。²¹

フランシスコ教皇は「核兵器を保有することは不道徳である」²²とはっきり表明してきました。以前には教皇庁は、核保有は他国が核兵器を使用することを防ぐための「抑止力」として正当化されるという立場を取っていました。しかし2015年、教皇庁は次のように宣言しました。



核兵器の保有は、たとえそれが抑止力のためのものであっても道徳的に問題があるということを認めなければなりません。このような兵器の使用可能性も人間の尊厳に対する要求と根本的に一致しないという合意が増え続けていますが、かつて教会はこれに「漸進的な廃棄に向けた段階」という条件を付け、抑止力という大義名分で核兵器保有を暫定的に受け入れる立場を表明してきました。しかし、そのような条件は実現するどころか、廃棄とはかけ離れています。完全な廃棄に向けたこれ以上の進捗もなく、より安全ではるかに真正性のある平和に向けた具体的な措置がない状況で、核兵器設置はその正当性をほとんど喪失しました。もはや核兵器使用の不道徳性だけでなく、核兵器を保有することも不道徳であるという事実を確認し、核廃絶への道を模索すべき時期です。²³

実は、アメリカとソ連（現在のロシア）が単に抑止力という唯一の目的のために、莫大な核兵器を保有しているわけではありません。彼らの核兵器政策は常に抑止力と核戦争の戦闘力の混合体であり、この二つとも今日の全地球の絶滅を脅かします。例えば、2010年にオバマ政権がハイレベルの核態勢の再検討（Nuclear Posture Review）を終えた後、国防省は「アメリカが潜在的な敵に対抗できる相当な対応力を維持できるよう新たな指針を求める。新しい指針は、『カウンターバリュー』ⁱⁱⁱや『最小限の抑止戦略』に依存しない」と宣言しました。²⁴

ⁱⁱⁱ 軍事教義で使われる用語で、都市や民間人のように軍事的脅威にならない相手の資産を標的とすることをいう。カウンターフォース（Counter-force）は、相手の軍隊と施設を標的とするものである。

このような持続的な核戦争能力の実行は、2018年にトランプ政権の核態勢の再検討によって増強されました。使用可能な低威力の潜水艦核弾頭、1990年代初めに撤収したものに代わる新しい海上発射の巡航ミサイル、そして以前に廃棄する計画であったアメリカ最大規模の1.2メガトン²⁵核爆弾の持続的な保有などが追加されたのです。²⁶ バイデン政権は現在、2022年初めに発表予定の新しい核態勢の再検討を準備していますが、核を保有する強大国の新たな核戦争能力の追求に逆行するとは期待できません。

さらに、アメリカとロシアは単に抑止力のためなら数百個程度で十分な核兵器を、数千個保有し続けています。競争力のある戦争能力を備えようとするこの限りない追求は、核保有国の巨大な核兵器「現代化」プログラムを推進しますが、アメリカは今後30年にわたって少なくとも1兆7千億ドルを投資する計画だそうです。²⁷

これらすべては、フランシスコ教皇が要請した核兵器廃絶に反するものです。霊的世話を私たちに委ねられた地で、核兵器が目立って顕著なことを考慮すると、救い主イエス・キリストと聖フランシスコの聖なる信仰が私たちに願われたように、サンタフェ大教区は核兵器のない未来の世界を擁護し指導する特別な責任を持っています。

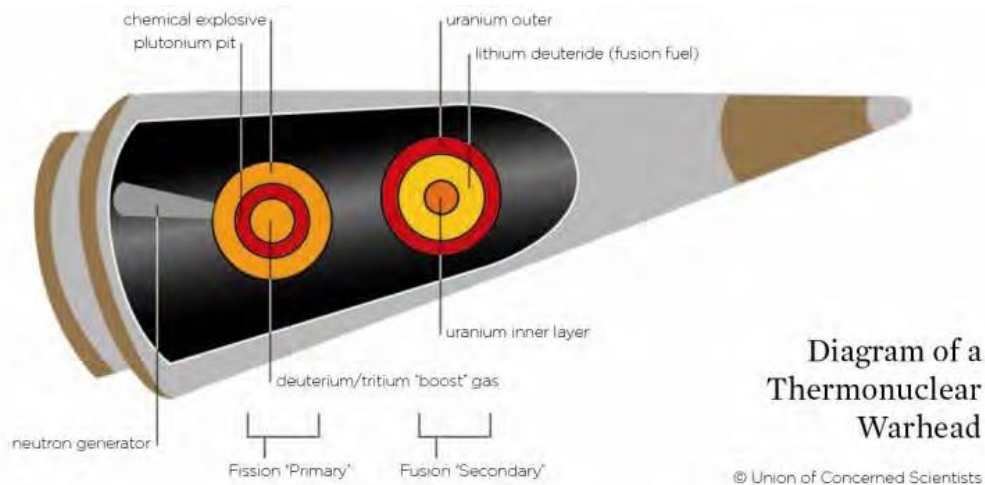
イエスと聖フランシスコに、核兵器のない未来の世界への長い道のりに立った私たちに祝福して下さるように願います。

新しい核兵器競争

なぜアメリカが初めて原子爆弾を投下したのかについて、歴史学者の間で幅広い議論が行われています。ガー・アルペロヴィッツのような多くの学者は、アメリカ政府も日本の裕仁天皇が1945年8月15日に降伏しようとしたことを知っていたと主張しています。実際、トルーマン政権の多くの主要人物は原爆投下に反対し、戦争を終わらせるためにこの恐ろしい爆弾を落とす必要はないということを知っていました。一部の歴史学者は、アメリカが戦争を終結させるためではなく、アメリカがソ連に比べて軍事的に優越していることを証明するために広島と長崎に大量破壊兵器を投下し、そのように核兵器競争を始めたと主張しています。実際、一部の歴史学者は1950年代初めに戦争を遂行した部署が「原子爆弾が数多くの生命を助け、原子爆弾が同年11月の侵攻で死亡したかもしれないアメリカ人百万人の死を阻止した」という神話を創案した事実を暗示します。その神話は今日も広まっているので、もっと議論される必要があります。²⁸

現在、人類家族全体、実際に地球全体が危険にさらされています。私たちが最初の核兵器競争から十分に学ぶことができなかつたからです。今、私たちは次のような二度目の核兵器競争に突入しています。

- ・ アメリカ・ロシア間の中距離核戦力全廃条約と領空開放（オープンスカイズ）条約の失効。
- ・ アメリカは依然として3,750個の核兵器を保有しています。これは地球を何度でも破壊するのに十分な数ですが、核兵器の廃棄は一年に約75個の弾頭程度に鈍化しています。アメリカは現在、既存の核兵器を再構築して新たな軍事力を備えており、新たに設計された弾頭の生産も計画されています。



ミサイル原子核の弾頭模型

新しい核兵器生産工場が少なくとも2075年まで稼動すると予想され、新しい核弾頭を運搬するために新型重爆撃機、潜水艦、弾道ミサイルと巡航ミサイルが作られています。このすべての核心は、ロスアラモス国立研究所で毎年80個までプルトニウム「ピット (pit)」爆弾コアの生産を拡大することです。2022年度の研究室予算の40億ドルの72%が核心核兵器研究と生産プログラムのためのものです。²⁹

Central Mission of Los Alamos National Laboratory



Los Alamos
NATIONAL LABORATORY
EST. 1943
Operated by Los Alamos National Security, LLC for NNSA

ロスアラモス国立研究所の核心使命

UNCLASSIFIED

NNSA

- また、ロシアも「現代化」プログラムに参加してきました。プーチン大統領は、新たに進化した核兵器を発表し、アメリカがロシアの新型核兵器を決して防御できないと主張しました。ロシアがウクライナを侵攻する可能性に対する国際的緊張が高まっていますが、あるアメリカ上院議員は核戦争も起こり得ると公に述べました。
- 中国は大陸間弾道ミサイルのための数百個の新しいミサイルサイロ (silo)^{iv}を建設しており、新しい極超音速兵器とみられる実験をしています。アメリカを核戦争に

^{iv} サイロは、ミサイルの地下格納庫兼発射台のことをいう。

追い込む可能性もある台湾に対する国際的緊張が高まっています。中国の核能力の増大は、新たな核態勢の再検討を控えたバイデン政権に、より強硬な立場を採択させる現実的要因になっています。また、これはインド、中国、パキスタンの三国間の核兵器競争を触発する可能性もあります。

- ・ アメリカとイギリスがオーストラリアと原子力潜水艦の技術を共有するという計画を発表しましたが、イギリスとパキスタンは自らの武器を量的拡大しています。
- ・ アメリカがイランとの核交渉を終了した後、イランは爆弾製造能力の増大のためにウランを濃縮したと言われます。アメリカとイスラエルはイランの核兵器確保を容認しないと公言してきました。イスラエルは自国の核兵器の備蓄量を認めたことはありませんが、イランに対する先制的な軍事行動を脅かしてきました。
- ・ 北朝鮮は約45個の核兵器を保有していると推定され、精力的（挑発的）なミサイル実験計画を続けています。しかも、アメリカの核の傘の下で核兵器戦争が起こる可能性がある北朝鮮と韓国の間で、通常兵器の競争が加速しています。

核兵器競争は本質的に自己永続化の傾向、すなわち行為とその行為に対する反作用を不安定に加速させる悪循環を絶え間なく表します。その例として、ロシアと中国の新型核兵器は、ある面ではブッシュ大統領が2001年に弾道弾迎撃ミサイル制限条約（Anti-Ballistic Missile Treaty）を一方向的に終結させたことに対する長期にわたる反応です。在任期間中、レーガン大統領はソ連国民に対し、「この時代、我々の文明を保存するための健全な政策はただ一つだけです。核戦争では誰も勝利できず、決して戦ってはいけません。核兵器を保有している二国の唯一の価値は、核兵器を絶対使わないことです。それなら、それらを完全になくした方が良いでしょう。はいですか」³⁰とストレートに言いました。

核戦争に勝者はなく、核戦争は、絶対に行ってはならない。使用しないがために核兵器を保有するより、すべてをなくすべきではないか。
ロナルド・レーガン大統領、1984年の一般教書演説

全地球の安全を保障する唯一の解決策は、レーガン大統領とフランシスコ教皇が私たちに要請してきた通り、多国間の検証可能な核兵器の除去です。

核兵器の危険

核戦争の明白な危険は、ほとんど非戦闘員だった約20万人の死者を出した広島と長崎の原子爆弾投下で知られています。しかし、今日の潜在的な核リスクを推算すると、核兵器がもたらす恐ろしい被害は想像できません。現在、全世界には13,000個以上の核兵器があり、その一部は日本に投下された二個の爆弾より100倍も強力なものです。約2,000個にのぼるアメリカ、ロシア、イギリス、フランスの核弾頭は、高い警戒体制を維持し、いつでも使える準備を整えています。³¹

あまり知られていない核兵器保有の否定的な影響は、以下の通りです。

- 核兵器に使われるウランの採掘の影響で、アメリカで約1,000人以上の肺癌死亡者が続出したと推定されますが、特にアメリカ先住民（ニューメキシコのディネ [Diné] とラグーナ・プエブロ [Laguna Pueblo] を含む）に不均衡な影響を及ぼしました。³²
- 核兵器と関連した仕事をする多くの労働者が放射能と化学物質にさらされ、深刻な疾患に悩まされたり死亡したりしました。全国的に13万人を超える労働者とその家族が訴訟を起こしました。サンタフェ大司教区の中でもロスアラモス国立研究所を対象に17,595件、サンディア国立研究所を対象に6,239件の訴訟が提起されました。³³
- ロスアラモス国立研究所で核兵器の研究と生産が行われた75年間、約90万平方ヤードの放射性有害廃棄物が内部処理されていない穴と塹壕に埋葬されました。³⁴ 総合的な浄化計画もありません。その地域の地下水は、ものすごい汚染物質で汚染されていると思われます。³⁵
- 核兵器実験で発生する放射性降下物は、1945年から2000年の間に全世界で43万人にのぼる癌死亡者を発生させたものと推定されます。寿命の長い放射性炭素C14（carbon-14 fallout）で、結局120万から240万人に達する人々が死亡することになります。³⁶ ニューメキシコのトリニティ^v実験風下住民被害者（Trinity Test downwinders）たちは何の補償も受けられませんでした。
- アメリカは核兵器に10兆ドル以上を投資してきており、³⁷ 今後30年にわたって核兵器の備蓄と輸送システムの「現代化」に約1兆7千億ドルを再投資すると推算されます。これは病人や、貧しくて脆弱な人々の生活改善に使われるべき費用です。核戦争にどれだけ莫大な費用がかかるのか計り知れないほどです。
- 何よりも、過去数十年にわたって検討されてきたテーマである核戦争以後の長い「核の冬」^{vi}の破局的な影響が挙げられます。例えば、1998年5月、国連の報告書は「大規模な核戦争は直接的に数億人を殺すことになるが、間接的な影響では数十億人の人を殺すことになる」と結論付けました。³⁸



図4:内部処理されていない穴に埋葬するために放置された放射性有毒廃棄物 (ロスアラモス国立研究所)

^v 人類初の核実験に使われた核兵器に付けられたコードネームである。1945年7月16日、アメリカのニューメキシコ州アラモゴルド砲撃場（Alamogordo Bombing and Gunnery Range）で実験が行われた。使われた爆弾はプルトニウム爆弾で長崎に投下されたファットマンと同じ種類である。トリニティ実験の大きさはTNT22キロトン以上の規模だったという。

^{vi} 核の冬（Nuclear winter）は、核戦争によって地球環境に大きな変化が生じ、人為的に氷河期が発生する現象をいう。核兵器の使用による爆発と、それに伴う広範囲な火災で空中に発生した灰と煙によって太陽光が隠された結果である。カール・セーガンなどの学者たちが提唱した。

核災害を招きかねない事故と誤算

1957年、今まで作られたものの中で最も強力な爆弾の一つである42,000ポンドの水素爆弾がサンタフェ大司教区内のアルバカーキ・カートランド空軍基地南側4.5マイル地点に誤って落とされました。³⁹爆発物が完全に内蔵されていたら、この爆弾はニューメキシコ中心部を吹き飛ばしていたはずです。



図5: 1945年7月16日のトリニティ核実験、原子時代の黎明

さらに深刻な事故は、1961年1月23日にノースカロライナ州のゴールドズボロ (Goldsboro) 上空で発生しました。空中分解したB52爆撃機から、4メガトン規模の爆弾が二つ落ちたのです。サンディア研究所のある核兵器専門家が「二番目の爆弾で偶発的な爆発を防ぐために設計された四つの安全システムのうち三つが作動せず、四番目の安全装置である簡単な低電圧スイッチが、その日ノースカロライナにアルマゲドンが起きるのを防いだ」⁴⁰という事実を突き止めたそうです。

1962年のキューバミサイル危機の時、アメリカ駆逐艦の攻撃を受けた際に、ロシア潜水艦に乗った将校三人の中の一人は核魚雷の発射許可を拒否しました。この行為で幸いに、ほぼ確実視されていた全面的な核戦争の開始を防ぐことができました。⁴¹

1979年にはソ連の全面核攻撃に備えて模擬実験をしていた北アメリカ航空宇宙防衛司令部 (NORAD) の訓練テープが早期警報網に誤って挿入されました。その後2年間、アメリカの警報システムは3回も誤った警報を出しました。⁴²

1983年9月26日、ソ連の早期警報システムを管轄していた大佐は、アメリカの弾道ミサイルが飛んでくるという二件の報告が嘘だという事実を本能的に判断しました。高位当局に対応攻撃を開始するよう通報する前に、彼は地上レーダー上での確認を待つのが最善だと主張し、定められたプロトコルに従いませんでした。彼の不服従が世の中を救うことができたものと思われます。⁴³

1995年にロシア戦略軍は、科学装備を積んだ米・ノルウェーのロケットを核兵器で武装したミサイルと誤認しました。報道によると、ロシア大統領ボリス・エリツィンはミサイルの軌道が脅威的でないことが計算される前に初めて「核のフットボール (nuclear football)」^{vii}を作動させました。

^{vii} 大統領非常事態カバン (president's emergency satchel) と呼ばれる書類カバンで、大統領が非常作戦センターのような固定指揮所を離れているとき、核攻撃を承認する装備をいう。戦略防御システムのモバイルハブとして機能し、補佐官が持ち歩いている。

今まで地球で核災害を避けられたのは幸いです。前述のいくつかの事件以降、核兵器に対する命令や統制、安全メカニズムは改善されてきました。しかし、すべての核兵器をなくさない限り、核戦争が起きないだろうという慰めは得られないでしょう。それまで核戦争の現実的な脅威は残っており、さらに大きくなっています。

二番目の核兵器競争は、以下のような理由で、一番目よりもはるかに危険だと言えます。

- 核兵器競争はもはやアメリカとロシアの二国間の競争ではありません。より多くの国々が核兵器に投資しているからです。
- テロリストや下位国家主体^{viii}によって局地的な核戦争が起きたり、核兵器が使用されたりする可能性が高まりました。
- 新しいサイバー戦争技術は、核防御力に深刻な損傷を与え、核兵器の指揮と統制権を掌握することができます。
- 極超音速伝達プラットフォームと人工知能の技術的発展は、新たな不確実性をもたらすでしょう。
- 気候変動は、全世界的に核戦争を含む紛争の可能性を増加させる大変な混乱と人間の移住を引き起こすでしょう。



^{viii} 下位国家の行為者 (sub-state actors) には、多国籍企業、非政府組織、知識専門家団体、国際機関、反乱を起こす集団、テロ団体などが含まれる。

第三部

暗闇に住む民は大きな光を見た —— 唯一かつ現実的な代案は核軍縮 ——

核拡散防止条約順守の失敗

一般に、世界核拡散禁止体制の礎と呼ばれる核拡散防止条約（NPT）は1970年に発効され、189か国が署名しました（他のどの条約よりも多くの国が署名）。「各締約国は、核軍備競争の早期の停止及び核軍備の縮小に関する効果的な措置につき、並びに嚴重かつ効果的な国際管理の下における全面的かつ完全な軍備縮小に関する条約について、誠実に交渉を行うことを約束する」⁴⁴という内容の代償として、非核保有国が核兵器取得を放棄するという一大取引でした。

核保有国が核廃棄に進む限り、残りの国も不拡散体制を公正なものに見なすことになるでしょう。

2014年、教皇庁

半世紀が過ぎた今、核兵器を持つどの国も、その厳粛な約束を尊重しないだけでなく、自国の核兵器を無期限保存するために設計された大規模な「現代化」プログラムを実行することで、ますます反対方向に進んでいます。

2014年に教皇庁は次のように宣言しました。

世界の指導者たちは核拡散防止条約とその他の国際文書に含まれている武装解除に対する約束が、法的かつ政治的な詳細事項以上であるという事実を想起しなければなりません。それは世界の未来がかかっている道徳的約束です。……核保有国が核廃棄に向かってほとんど、または全く進むことができなければ、核拡散防止条約は現状維持政策の不当な持続と見なさざるを得ません。核保有国が核廃棄に進む限り、残りの国も不拡散体制を公正なものに見なすことになるでしょう。⁴⁵

2015年の核拡散防止条約運用検討会議（Review Conference of the Non-Proliferation Treaty）は、核廃棄について何の進展も得られず失敗に終わりました。しかも、それ以降さまざまな逆行する動きがありました。今後、NPT運用検討会議は、核兵器強国と非核国家の間に絶望的な膠着状態を示し、何の進展も果たせないものと予想されます。

核兵器禁止条約（Treaty on the Prohibition of Nuclear Weapons）

カトリック教会は最初から核兵器禁止条約の主導的な支持者でした。2017年3月に禁止条約の交渉が始まった時、フランシスコ教皇は条約の締結過程が「核兵器のない世界への道で決定的な一歩」となり、それは「私たちが到達できないこと」⁴⁶ではないという希望を公式に表明しました。バチカン、2017年9月にこの条約に署名した最初の国であり、条約は2021年1月22日に遂に発効しました。この条約は核兵器の完全な除去を究極の目標とした、核兵器を禁止する最初の法的拘束力のある国際協定です。この禁止条約は、特に化学および生物兵器協約のような他の種類の大量殺傷兵器に対する禁止条約に比べてはる

サンタフェ大司教区は、核兵器禁止に関する条約を支持するだけでなく、条約の積極的な履行を奨励する特別な責任を持っています。

ジョン・C・ウェスター大司教

かに優先順位を持っています。また、この条約は「核兵器に関する活動が先住民にもたらす均衡を失した影響」を認め、「締約国は……当該汚染された地域の

環境を修復するため必要かつ適切な措置をとる」⁴⁷ことを認めた点において、サンタフェ大司教区と特別な関連があると強調されなければなりません。

このすべてのことと私たちの地域に深く関連した核兵器の歴史を勘案すると、サンタフェ大司教区は核兵器禁止条約を支持するだけでなく、全米にわたって条約の積極的な履行を奨励する特別な責任を持っています。

核兵器を永遠に維持するニューメキシコ州の独特の役割

ニューメキシコには、アメリカの三大核兵器実験室のうちの2か所であるロスアラモスとサンディア国立研究所があります。第二次世界大戦の間、ロスアラモス実験室の敷地の大部分はアメリカ先住民の先祖とヒスパニック定着民に適切な補償もされないまま差し押さえられましたが、これにより植民地主義、人種差別主義、そして構造的暴力という遺産が受け継がれてしまいました。

ロスアラモス国立研究所は、広島と長崎を破壊した原子爆弾を設計・製造した核兵器発祥の地でした。世界初の原子爆発が行われたトリニティ実験は、ニューメキシコ中南部地域で実施されました。魅惑の地 (Land of Enchantment) という別名を持つニューメキシコ州は、アメリカで最も大きな核兵器保有施設を持っていますが、アルバカーキ国際空港の南側2マイル地点に位置するカートランド空軍基地の地下貯蔵庫に約2,500個に達する核弾頭があると言われます。これが独立した国であれば、ニューメキシコは世界第3位の核保有国でしょう。⁴⁸

連邦予算文書によると、ニューメキシコ州のエネルギー施設管理局は2022会計年度に80億ドルを受け取ることになっていますが、これは州全体の運営予算である73億4千万ドルより多い金額です。その予算の75% (60億ドル) がエネルギー局の半独立的核兵器機関である国家核安全保障局 (National Nuclear Security Administration) で行われる核心核兵器研究と生産プログラムに使われます。国家核安全保障局が全米で使用する核兵器予算155億ドルの39%がニューメキシコ州で使われることで、ニューメキシコ州のすぐそばにある州の全体予算より二倍以上多いのです。⁴⁹

プルトニウム「ピット (pit)」^{ix}爆弾コアの生産はアメリカで産業規模の核兵器生産の焦点でしたが、1989年にアメリカ連邦捜査局 (FBI) がデンバー近隣のロッキーフラッツ工場 (Rocky Flats Plant) で起きた環境犯罪を調査し、突然生産が中断されました。1996年にエネルギー局はピット生産の任務をロスアラモス国立研究所に再び移転させ、年間20個に制限しました。現在、国家核安全保障局はロスアラモス実験室で年間30個のピットの生産から年間最大80個まで生産できるよう精力的に拡張しています。ロスアラモス国立研究

^{ix} 核分裂物質と中性子反射体が結合されている爆発兵器の核をいう。1950年代に実験された一部の兵器はU-235で作ったピットを使用したりプルトニウムで合成したピットを使用したりしたが、プルトニウムピットが直径が最も小さく、1960年代初めから標準になった。

所は、2022会計年度に投機的な新型核兵器に使用されるピットの増産にのみ⁵⁰、10億ドルをもらうことになるでしょう。世界的な実験猶予でこれらの武器が全面的に試験されることはできませんが、さらに悪いことはアメリカが再び試験を進行するよう刺激することができ、そうすれば他の国が明確にその措置に従うことになるでしょう。

また、ロスアラモス国立研究所は約90万平方ヤードの放射性有害ごみ⁵¹をリオグランデ川から3マイル離れた内部処理をしていない穴と坑道に埋め込んで覆い隠す計画を立てました。この廃棄物はその地域の人々が共有する地下水に流れ込み、永久的な脅威になるでしょう。

ニューメキシコ州にはアメリカ唯一の放射性廃棄物の深層地質処理場である核廃棄物隔離試験施設 (Waste Isolation Pilot Plant: WIPP) があります。今後、国家核安全保障局はWIPPの容量の半分は新型核兵器に使われるプルトニウム「ピット」爆弾コア生産から出る放射性廃棄物のために残しておくと言いました。⁵²

ニューメキシコ州では原子力発電所を所有したことがないにもかかわらず、原子力業界はニューメキシコ州にいわゆる「統合型中間貯蔵施設 (Consolidated Interim Storage)」を設置し、10万トン以上の致命的な高レベルの放射性廃棄物を捨てる案を模索しています。⁵³65年間、商業用放射性廃棄物を発生させながらも永久的な高レベルの廃棄物処理策を講じていない状況で、この貯蔵所が「臨時」になることは難しいでしょう。

私たちの中で最も貧しい人々に活用する基金を奪う核兵器

核兵器産業が直接的にも間接的にも雇用を創出してきたという理由で、ニューメキシコ議会代表団は核兵器産業を歴史的に大きく支援してきました。しかし、魅惑の地、ニューメキシコは50州全体の主要な社会経済的指標で常に最下位圏に位置しています。核兵器産業が一部特権層ではなく、ニューメキシコの人々にとって本当に利益になるのでしょうか。証拠はその反対を示しています。核兵器産業が79年間ニューメキシコで稼動してきましたが、人口調査局の資料によると、1959年に37位だった一人当たりの所得が2019年には49位に落ちたそうです。⁵⁴さらに、最近のある経済研究は、研究所の存在がロスアラモス郡周辺の7つの郡政府の経済的純利益を流出させるという結論を下しました。⁵⁵これとは対照的に、アメリカ国勢調査局の資料によると、ロスアラモス郡は平均世帯収入がアメリカで4番目に富裕な郡と評価されました。

アメリカ国勢調査局の資料によると、ニューメキシコ州には48%のヒスパニック系と12%のアメリカ先住民が居住しています。ロスアラモス郡には非ヒスパニック系白人が79%生活しており、アメリカの他の郡より人口比上の百万長者が多いです。

一丁の銃が作られるたびに、一隻の軍艦が進水するたびに、一発のロケットが発射されるたびに、結局は、飢えているのに食べる物がない人々、寒さに凍えているのに着る物がない人々からの窃盗が起きています。

ドワイト・D・アイゼンハワー大統領

^x リオグランデ (Rio Grande) は、アメリカとメキシコを通過する3,051kmの長さに達する川である。コロラド州の南側から発源し、ニューメキシコ州を経てテキサス州に流れ込んだ後、メキシコ湾に流れる。この川を境にアングロアメリカとラテンアメリカを区分する。

一方、ニューメキシコは貧困に苦しむ児童と高齢者の割合が最も高いです。しかも、魅惑の地は最近、全般的な児童福祉面で全州の中で49位にランク付けされてしまいました。このすべてがアメリカに経済的不平等と制度的人種差別が蔓延しているという証拠です。

2014年、教皇庁は次のように述べました。

20年以上前に冷戦が終息し、核膠着状態 (nuclear stand-off) も終わりましたが、全世界の貧困層の状況改善に役立つ平和配当金の提供に失敗しました。事実、莫大な金額のお金が、表面的には核兵器の数を減らしているまさにその国の核武装「現代化」に依然として使われています。⁵⁶

冷戦後、アメリカでは核兵器「現代化」費用が飛躍的に増加しましたが、この費用には全体備蓄量の維持に必要な費用だけでなく、新しい弾頭を運搬するための新型ミサイル、潜水艦、爆撃機を作るのにかかる莫大な金額が含まれます。さらに、国家全体として金持ちと貧者の間の経済的不平等が増大しています。アイゼンハワー大統領の次の演説は有名です。

一丁の銃が作られるたびに、一隻の軍艦が進水するたびに、一発のロケットが発射されるたびに、結局は、飢えているのに食べる物がない人々、寒さに凍えているのに着る物がない人々からの窃盗が起きていることになります。武装する世界は、単にカネを消費しているだけではなく、労働者の汗を浪費し、すべての科学者の知性を浪費し、子どもたちの希望を浪費しているのです。これは、いかなる真の意味においても、正しい生き方とは言えません。戦争の暗雲が立ち込める中、人類は鉄の十字架に磔になったも同然です。⁵⁷

2014年に教皇庁ははっきり言いました。

数十年間、核大国中心の政治体制が世界の貧困層に及ぼした影響は明白になりました。50年前、第2パチカン公議会は「(核) 軍拡競争は、人類にとってもっとも重い傷であり、貧しい人々を耐えがたいほどに痛めつけるものである」と宣言しました。今日、核兵器の生産、維持、配置は貧困を改善し、貧困層の社会経済的な発展のために利用されたかもしれない資源を奪い続けています。核施設の拡張は、国内的にも国際的にも貧困のパターンを永続させています。⁵⁸

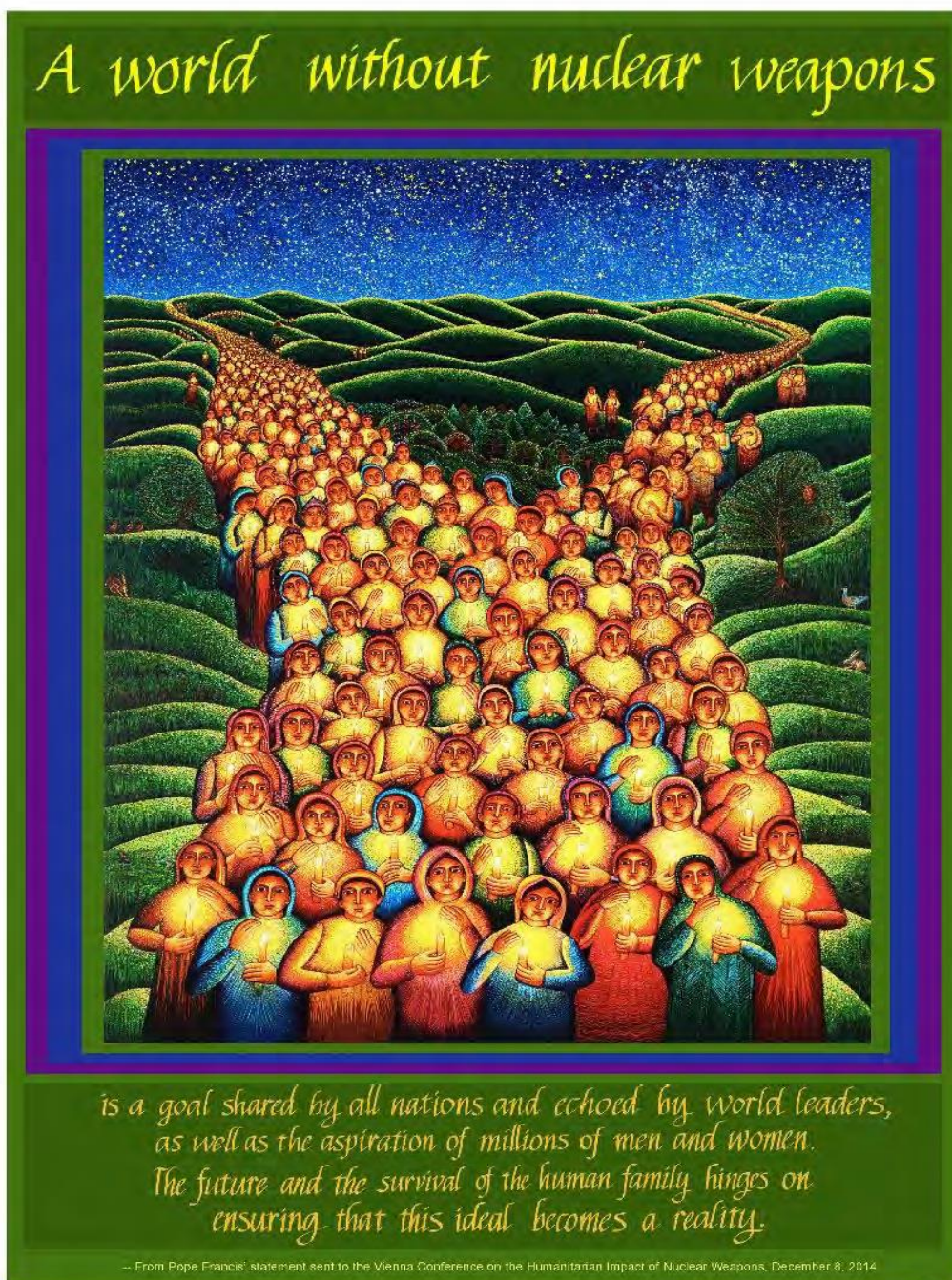
2019年、フランシスコ教皇は次のように宣言しました。

この地、核兵器が人道的にも環境にも悲劇的な結果をもたらすことの証人であるこの町では、軍備拡張競争に反対する声を上げる努力がつけねに必要です。軍備拡張競争は、貴重な資源の無駄遣いです。本来それは、人々の全人的発展と自然環境の保全に使われるべきものです。今日の世界では、何百万という子どもや家族が、人間以下の生活を強いられているにもかかわらず、武器の製造、改良、維持、商いに財が費やされ、築かれ、日ごと武器は、いつそう破壊的になっています。これらは天に対する絶え間のないテロ行為です。⁵⁹

さまざまな統計と現実とを照らしてみると、私はまさに今が全世界的に核兵器の全面廃棄に身を投じるべき時であると強調したフランシスコ教皇と他の多くの方々の主張に同意します。私たちは大量破壊兵器を構築し維持することに使った莫大な財政投資を終わらせなければなりません。その投資は少数の個人と企業のみを豊かにするだけです。代わりに、その莫大な資金を教育、医療、環境浄化、気候の脅威を解決し、インフラを再建し、今後発生するかもしれない感染症に対抗して、すべての地域にいるすべての人にワクチンを提供することに投資しなければなりません。

その基金は貧困と飢餓、そして未来の戦争を防ぐための真の国際紛争の解決プログラムに支援することで、戦争そのものの原因を取り除くことができます。さらに、全地球的な破壊に直面している災害的な気候変動の状況で、核戦争を準備するのにこれ以上資源を浪費することはできません。私たちは完全に変わらなければなりません。核廃棄という困難な作業に着手し、私たちの地球を世話し、すべての人に平和を提供できる新しい正義の文化の創造と建設に向けて進まなければならない時なのです。

核兵器のない世界



核兵器のない世界はすべての国が共有し、
世界の指導者が主張する目標であるだけでなく、
数百万の男女の熱望です。
人類家族の未来と生存は、
この理想がどのように現実化するかにかかっています。
(教皇フランシスコ、2014年12月8日、核兵器の人的影響に関するウィーン会議)

第四部

進むべき道

—— 省察、対話、そして行動 ——

私は緊急な核廃棄の必要性についての対話に参加するよう、ニューメキシコ州と全米の皆さんを招待します。私たちが共に祈り、共に学び、対話を交わすことによって、核を削減し、ひいては廃絶できる具体的な措置を取ることを願います。

数十年間、ニューメキシコ州のカトリック信者の多くは、平和のために祈り、創造的な対話を交わし、国立研究所に核兵器開発の中止を求めてきました。サンタフェ大司教区は1982年から2000年代初めまで、サントゥアリオ・デ・チマヨ(Santuario de Chimayo)からロスアラモスに至るまで平和のための年次エキュメニカルおよび宗教間祈祷巡礼(annual ecumenical and interfaith Prayer Pilgrimage for Peace)を後援してきました。⁶⁰

1980年代にサンタフェ大司教区は教区信者、聖職者、ロスアラモスとサンディア国立研究所職員、軍関係者たちと共に対話する席も用意しましたが、その集まりで私たちは聖書、カトリック社会教説、第2バチカン公議会文書について省察しました。

過去15年間、毎年8月6日には、カトリック信者とニューメキシコの住民たちは広島原爆が製造された場所であるロスアラモスのアシュリー・ポンド公園(Ashley Pond Park)で徹夜デモを行い、核廃棄を要請してきました。彼らはヨナがどのようにニネベの人々に暴力について悔悟するよう要請したのか、袋をかぶって灰の上に座って悔悟したニネベの人々について記録したヨナ書の内容を引用します。ニューメキシコの住民たちは毎年広島記念日にロスアラモスまで歩いて行き、ニネベの人々がしたように袋と灰をかぶって歩道に座り、30分間沈黙のうちに祈祷し、「戦争と核兵器がもたらした罪を悔悟し、平和の神に核廃棄という贈り物を与えてくれるよう懇願」します。彼らは研究所が核兵器の生産を中断し、核廃棄物を浄化し、環境を治癒し、住民の健康を増進させる非暴力的な仕事だけに従事することを期待します。住民たちは、この目標がニューメキシコと世界を暴力の地から非暴力の新しい地へと変えると言います。

核廃棄が皆に有益で、非暴力的なイエスに従うすべての信者に必要な条件だということに同意するなら、ニューメキシコを皮切りに核廃棄過程を始めるために、これから私たちはどのような具体的な措置を取ることができるでしょうか。結論的に、この対話に必要ないくつかのテーマに集中することを要請します。

まず、ロスアラモス国立研究所を大々的に浄化しなければならないということに同意できます。この作業は環境と地下水を永久に保護すると同時に、数十年間収入の良い数百の働き口を提供することで、ニューメキシコの人々に本当に役立つことになるでしょう。

次に、ロスアラモス国立研究所とサンディア国立研究所の専門知識を持つ人々が核兵器の開発作業を中断し、代わりに核兵器を解体する長期間の技術的な過程を始めることができるということに同意できます。多国間また検証可能な核廃棄が行われる世界のための計画、そして全世界の核兵器が消え、二度と作らないように確認する作業です。ロスアラモスとサンディア国立研究所の核不拡散プログラムは、核兵器のない未来世界を可能にする核兵器と核物質の遠隔感知、会計とモニタリングのための先端技術に焦点を合わせ、それに優先順位を置く必要があります。今後の武器統制条約を支援するために、向上した検証

技術が必要です。既存の核兵器の解体と処理のために、上記の研究所の設計専門性も必要でしょう。このようなすべての技術的手段が核兵器のない検証可能な未来世界を保証するとともに、今後高賃金の働き口を提供するためにも必要です。

また、災害的な気候変動が今や本当に国家安全保障上の脅威の要因になったということに同意できます。さらに加速する環境破壊と人命損失を防止するために、核兵器の生産と維持管理に使われる数十億ドルを移転させることが、国家的かつ地球的な作業の主な焦点にならなければなりません。教皇フランシスコは2015年の回勅『ラウダート・シーとともに暮らす家を大切に (*Laudato Si': On Care for Our Common Home*)』で、「気候変動は、環境、社会、経済、政治、そして財の分配に大きく波及する地球規模の問題です。それは、現代の人類の眼前に立ちはだかる重大な課題の一つです」⁶¹と強調しました。

特に、私たちはニューメキシコで核兵器に使われる資源を太陽光、風力と地熱資源を得るのに利用することができます。このような資源は化石燃料の抽出を中断することによって必要になるでしょう。現在、ニューメキシコのエネルギー局が再生エネルギー研究のために活用する資金は、ニューメキシコ州の核兵器予算の0.4%に過ぎません。⁶²

2019年3月、ニューメキシコ州議会は2025年までに再生エネルギーの使用を倍増させ、2030年頃には再生エネルギーを50%まで活用し、2045年頃には100%の脱炭素電力を生産することを求めるエネルギー転換法を制定しました。これでニューメキシコ州はクリーンエネルギー経済分野で最大8,830もの新しい働き口を創出し、2030年には46億ドル以上の新規投資を刺激するものと予想されます。⁶³ロスアラモス国立研究所の大々的な浄化事業と同様に、再生エネルギー事業の拡大も収入の高い働き口を提供するとともに、悪化する気候変動を緩和するのに役立つという側面で、ニューメキシコ北部地域の共生 (win-win) 事業になるでしょう。

さらに、ニューメキシコから始まり、世界的に核戦争の準備に使われる莫大な資金を、貧困と飢餓を終息させるのに使う時になったことに同意できます。この莫大な資金を国際紛争の解決プログラムに投資するなら、どんな素敵なことが起こるか想像してみてください。私たちの資源を、世界的に平和を築き上げていくのに役立つ活動に投資すれば、戦争自体の根本原因を把握し、未来の戦争を予防できるかもしれません。特に、私たちは核兵器禁止条約を支持するために最善を尽くさなければなりません。

ニューメキシコ州の住民に対して、道徳的な問題を持つ核兵器の働き口を必要としない雇用と経済的機会を提供するために努力しなければなりません。それは正しいことだけでなく、完全に実現可能なことでもあります。私たちに必要なのはそうしようとする政治的意志だけです。特に、サンタフェ大司教区はニューメキシコ州議会代表団と州知事にそのような目的のために絶えず努力するように促します。

祈りに根を下ろし、非暴力に基盤を置き、核廃絶が成就するという希望と信頼に焦点を置いた私たちのすべての対話は尊重されなければなりません。私たちはこの仕事をやり遂げられます。私たちと共にいてくださる平和の神がおられるので、私たちはこの仕事を早いうちにやり遂げることができます。



サンディアの聖母マリア (*Nuestra Señora de las Sandías*)
©ウィリアム・ハート・マクニコルズ神父 (Fr. William Hart McNichols)
<http://frbillmcnichols-sacredimages.com>

おわりに

—— キリストの平和の光の中で生きる ——

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、

この書簡で、私は広島と長崎での経験が私に与えた影響、核廃棄に乗り出そうというフランシスコ教皇の要請、そして平和な社会づくり、非暴力、普遍的な愛に対するイエスの福音的な教えについて申し上げました。私は核脅威の実体、核危機を解決しなければならない理由、そして核廃棄のために取ることのできる解決策と措置を概略的に説明しました。これから私は皆さんに、核廃棄に関する対話に参加してくださることをお願いします。私たちはフランシスコ教皇がニューメキシコで核兵器の生産と維持を中断し、核兵器のない新しい未来を創造するための新しい措置を取るように要請したことに耳を傾けるべきです。

2021年の降誕祭のメッセージと祝福「ウルビ・エト・オルビ (*Urbi et Orbi*)」^{xi}で、教皇フランシスコは私的にも (conversation)、紛争を解決するためにも (dialogue)、対話の重要性を次のように強調しました。

みことばは、わたしたちと対話するために人となりました。神は独り言ではなく、対話を望まれます。父と子と聖霊である神ご自身が対話であり、愛といのちの永遠で尽きることのない交わりだからです。神は、人となられたみことばであるかたを通してこの世に來られ、出会いと対話の道をわたしたちにお示しになりました。それどころか、わたしたちが信頼と希望をもってその道を知り、たどれるようにするために、ご自身が道となりました。

国際的なレベルでも、対話を避けてしまう恐れがあります。複雑な危機に対し、対話という長い周り道よりも、近道をたどるリスクがあるのです。しかし、紛争を解決し、すべての人に持続的に恩恵をもたらせるのは、対話の道だけです。⁶⁴

私はフランシスコ教皇が強調したこの対話が、今日の私たちに間違いなく必要だと確信します。私たちの間の分裂と議論を払拭させる解決策は暴力と戦争ではなく、平和に導く有益な対話に参加しようとする人々の率直で誠実な努力です。核廃棄に関する対話は、このような対話で欠かせない部分です。

イエスは72人の弟子たちを派遣なさる際、彼らが会う人々に平和の言葉を告げるように言いました。また、イエスは最後の晩餐で、「わたしの平和をあなたがたに与える」(ヨハネ14:27)と言いました。死者の中から復活した時、イエスが弟子たちに初めてかけた言葉は平和の言葉でした。したがって、イエスの弟子である私たちも互いに平和の言葉を話し、福音書に出てくる対話をニューメキシコと全世界の核廃棄のための具体的な行動に変えることができることを願います。

^{xi} ラテン語のウルビ・エト・オルビ (*Urbi et Orbi*) は「ローマ都市と全世界へ」という意味で、古代ローマで声明文の冒頭に書いた文句であった。今日では、教皇がラテン語で行う公式的な祝福と講話を行う。

書簡を締めくくりながら、私は広島に落ちた爆弾の明るい光を見るために窓へと駆け寄った日本の若い生徒たちを思い出します。その光は平和の光ではなく、死と破滅に導いた偽りの光でした。

イエスは真の光として世の中に来しました。イエスは暴力と死、滅亡の闇から私たちを導くために来しました。そのように行動するイエスは「世の光」です。イエスの光は核兵器の明るい光とは正反対です。イエスの光は普遍的な愛の真の光、普遍的な慈悲の光、普遍的な平和の光です。イエスの光は完全な非暴力の光です。イエスの平和の光は私たちに平和という新しい未来、核兵器のない世界に向かって進む生命の道を見ることができるようしてくれます。

広島への原子爆弾の投下は、聖なる主イエスの変容の祝日である8月6日に発生しました。変容の物語で（マタイ17:1-8、マルコ9:2-8、ルカ9:28-36）、イエスは3人の弟子を連れて高い山に登りました。彼らの目の前でイエスの姿が変わり、その顔は日のように輝き、その衣は光のように白くなります。弟子たちが非常に恐れ、顔を地に伏せると、イエスは彼らを触りながら「起きなさい。恐れることはない」と言いました。弟子たちはイエスの真の姿、すなわち世の光であり治癒する平和の光であることを見た証人でした。

イエスの弟子として、私たちはこれ以上暴力の闇と核戦争の脅威という影の中で生きていけないことを選択しなければなりません。キリストの平和の光は、核戦争に備えて数千個の核兵器を開発しながら、あまりにも長い間彷徨させた死の陰湿な谷から私たちを抜け出させてくれます。キリストの平和の光の中で、私たちは平和と愛、非暴力という約束の新しい地を見ることができます。私たちがあえて変容して復活したキリストに従うなら、恐怖を振り払って立ち上がり、まさにニューメキシコで始まり、約束された平和の地、核兵器のない新しい世界に向かって進むことができます。

キリストの平和の光の中で、私たちはお互いを兄弟姉妹と見なします。神は私たちを互いの敵ではなく、一つの人類家族の構成員として、この美しい共通の家を共有する神の子どもとして創造しました。私たちはこれ以上、誰でもどこでも核戦争で威嚇する必要はありません。私たちは核廃棄を始めるための具体的な措置を取らなければなりません。つまり、武器を解体し、土地を浄化し、その莫大な資源を国際的な非暴力の紛争解決の構造に使うのです。このような措置は飢餓、貧困、人種差別、そして貪欲のような戦争そのものの原因を根絶することができます。

キリストの平和の光の中で、私たちはニューメキシコとアメリカ、そして全世界のための新しい未来を見ます。核兵器を作って保存しない新しい非暴力のニューメキシコ、すべての人々が核戦争の脅威なしに平和に暮らせる新しい世界を見ます。私たちは新しいニューメキシコで飢餓と貧困を終息させ、学校と保健医療を改善し、すべての人々の生活を維持する雇用を保障し、すべての人々に平和と非暴力の人生を教えるのに私たちが持つ資源を使うことができます。このような対話を追求して核廃棄という任務を引き受けるならば、私たちは私たちの土地と世の中をより平和で安全にするだけでなく、ついにキリストの平和の光の中で完全に生きる方法を学ぶことになるでしょう。

ジェラード・マンリー・ホプキンス (Gerard Manley Hopkins) は「神の偉大さ (God's Grandeur)」という詩の中で、「聖霊が曲がった世界の上に明るい翼を広げて暖かい胸で抱いてくれるので」⁶⁵ 地球は絶えず新しくなると言いました。その明るい羽の光は知恵、思慮深さ、勇気に満ちていて、平和に関する有益な対話を持続できるようにしてくれます。そのような対話は、暴力と核戦争の脅威によってしばしば曲がってしまう貧しい世の中を

新しくし、活力を吹き込むでしょう。その輝く翼の光は、「闇の中で輝く」（ヨハネ1:5）キリストの光です。明けの星であるキリストは、「死者のうちから復活し、人類を平和の光で照らして（*Easter Exsultet* — 復活賛歌）」⁶⁶くださいました。私たちはまさにこの光、キリストの平和の光の中で、核廃棄に関する対話に乗り出すことができます。私たち自らキリストの平和の道具になることで、戦争の道具をなくすことができるよう祈ります。

しかし、もちろん大切なことではありますが、私たちが平和の道具になるということだけでは十分ではないのです。そう、私たちは、この大義の深刻さと、人類と地球全体に迫る危険な脅威にふさわしい緊急性を持って、世界的な核軍縮の大義に取り組まなければならないのです。私はサンタフェ大司教区所属のすべての信者とニューメキシコ州のすべての住民にこの目標に向かって具体的な行動を取らせる重大な対話に参加することで、核廃棄という挑戦的な課題を引き受けることを促します。私が大変なことを要請しているという事実をよく知っています。しかし、平和という任務のために弟子を二人ずつ送ったイエスもそうしました。その弟子たちのように、私たちもキリストから遣わされ、キリストによって力づけられ、与えられた課題のために、キリストによって強められるのです。

17世紀初め、スペインからニューメキシコに伝わった祝福された聖母のイメージに与えられた最初の称号の一つは、「ヌエストラ・セニョーラ・デ・ラ・パス（*Nuestra Señora de la Paz* — 平和の聖母）」でした。平和の聖母に私たちの代わりに祈ってくださることを、平和を与えてくださるキリストの光の中で生きていける道を見せてくださることを願いながら、皆さんに核廃棄に向けたこの新しい対話に参加してくださるよう丁重にお願いします。

キリストの平和の光で、皆さんの兄弟



ジョン・C・ウェスター
サンタフェ大司教
2022年1月11日

聖フランシスコの平和の祈り

主よ、わたしをあなたの平和の道具と
ならせてください。

憎しみがあるところに愛を、
争いがあるところに赦しを、
分裂があるところに一致を、
疑いのあるところに信仰を、
誤りがあるところに真理を、
絶望があるところに希望を、
闇があるところに光を、
悲しみのあるところに喜びを。

ああ、主よ、慰められるよりも
慰める者としてください。

理解されるよりも理解する者に、
愛されるよりも愛する者に。

それは、わたしたちが、
自ら与えることによって受け、
赦すことによって赦され、
自分のからだをささげて死ぬことによって
とこしえの命を得ることができるからです。
アーメン。

Lord, make me an instrument of your peace:
where there is hatred, let me sow love;
where there is injury, pardon;
where there is doubt, faith;
where there is despair, hope;
where there is darkness, light;
where there is sadness, joy.

O divine Master, grant that I may not so much seek
to be consoled as to console,
to be understood as to understand,
to be loved as to love.

For it is in giving that we receive,
it is in pardoning that we are pardoned,
and it is in dying that we are born to eternal life.
Amen.



(© "St. Francis of Assisi"
by Br. Mickey McGrath, OSFS,
Courtesy of Trinity Stores,
www.trinitystores.com,
800.699.4482)

書簡の要約

2017年9月、私は日本を旅行しながら広島と長崎を訪問しました。1945年8月6日、人類が核時代の闇という一線を越えたという事実に気づいたことは、暗鬱でありながらも目の覚めるような経験でした。歴史的にサンタフェ大司教区は、このような兵器が二度と使われないようにする平和イニシアティブの一部でした。私は、今がそのような平和作業を回復しなければならない時だと信じています。

私たちは、ニューメキシコ州からアメリカ全域にわたって、普遍的かつ検証可能な核廃棄に対する真摯な対話を続けなければなりません。私たちは過去の冷戦よりも危険な新たな核兵器競争で自らに与えてきた危険な苦境を、これ以上否定したり無視したりすることはできません。ロシア、中国、その他の地域からの脅威が増大する状況の前で、私は核兵器競争が本質的に永続的であり、アメリカを含むすべての当事国の自己永続化、すなわち行為とその行為に対する反作用を絶えず不安定に加速させる悪循環であることを指摘します。私たちは核兵器競争を激化させるのではなく、核兵器を統制しなければなりません。

さらに、私たちは核兵器を廃棄し、核の脅威を永久的に終息させるための具体的な措置を講じなければなりません。もし私たちが人類を大切にすれば、地球を大切にすれば、平和の神と人間の良心を大切にすれば、私たちはこの緊急な質問に対する公開対話を始め、核廃棄に向けた新しい道を探さなければなりません。

ニューメキシコ州のアルバカーキにあるカートランド空軍基地にロスアラモスとサンディア核兵器研究所、そしてアメリカ最大の核兵器貯蔵所があるので、サンタフェ大司教区は核廃棄を擁護する活動における特別な役割を担っています。同時に、環境浄化事業でニューメキシコ住民に生活を保障する働き口を提供し、不拡散プログラムと気候変動に対処することも奨励しなければなりません。

カトリック教会が「抑止力」の条件付き容認から、核廃棄が道徳的な命令だという態度に転換し、フランシスコ教皇も核兵器保有の不道徳性について明確な声明を発表してきました。単なる抑止力のためであれば数百個程度でいいにもかかわらず、私たちは神が創造した地球上のすべての被造物を破壊できるだけの数千個もの戦争用核兵器を保有しています。その上、私たちは核兵器を「現代化」し永遠に維持するために少なくとも1兆7千億ドルを支出する計画を立て、貧しく窮乏した人々のために使う基金を強奪しています。

カトリック教会はずいぶん前から核兵器に反対する声を上げてきました。バチカンが核兵器禁止条約に署名・批准した最初の国家です。フランシスコ教皇の宣言どおり、「私たちは核兵器禁止条約を含め、核廃棄と不拡散という国際的な法的主要枠組みを支持する活動を疎かにしてはなりません」。普遍的かつ検証可能な核廃棄に向けた活動を続けながら、その条約を支持することは、核兵器発祥の地であるサンタフェ大司教区の義務です。

福音書についての黙想を通じて、フランシスコ教皇はしばしば非暴力的なイエス、そして「平和をつくり出す人たちは、幸いである」と「敵を愛しなさい」という主題を強調します。イエスは福音書に出てくる通り、非暴力を実践するよう私たちに要請しました。したがって、私はキリストの光の中に足を踏み入れ、平和の新しい未来、約束された平和の地、平和と非暴力の新しい文化に向かって一緒に歩いていけるよう、皆さんを招きます。この美しい惑星、私たちの共通の家に住む兄弟姉妹として、私たち皆が平和に生きる方法を学ぶことができるでしょう。

付録 I

研究、省察、行動のためのいくつかの提案

● 参考ウェブサイト

原子力責任に関する同盟 (Alliance for Nuclear Accountability)

<https://ananuclear.org/>

軍備管理協会 (Arms Control Association)

<https://www.armscontrol.org/>

核の安全を懸念する市民たち (Concerned Citizens for Nuclear Safety)

<http://nuclearactive.org/>

アメリカ科学者連盟 (Federation of American Scientists)

<https://fas.org/issues/national-security/>

教皇庁 (The Holy See)

<https://www.vatican.va/content/vatican/en/search.html?q=nuclear+weapons>

核兵器廃絶国際キャンペーン (International Campaign to Abolish Nuclear Weapons)

<https://www.icanw.org/>

ニューメキシコ核監視団 (Nuclear Watch New Mexico)

<https://nukewatch.org>

パックス・クリスティ USA (Pax Christi USA)

<https://paxchristiusa.org/nuclear-disarmament/>

核を憂慮する科学者同盟 (Union of Concerned Scientists)

<https://www.ucsusa.org/nuclear-weapons>

国連 (United Nations)

<https://www.un.org/en/site-search?query=nbuclear+weapons>

米国カトリック司教協議会 (United States Conference of Catholic Bishops)

<https://www.usccb.org/committees/international-justice-and-peace/nuclear-weapons>

● 立法擁護活動

アメリカの核兵器の複合体で魅惑の地ニューメキシコが占める核心的な役割を考慮すると、ニューメキシコ州議会代表団は特に核兵器問題に関して大きな影響力を持っています。多国間そして検証可能な核廃棄の必要性に対する市民の見解を代表団に知らせることを促します。核兵器生産の代わりに環境浄化、不拡散プログラム、そして新しいグリーン経済を通じて生活を保障する働き口を作り出すことも必要です。これに加えて、2008年に最後の研究が行われて以来、安全性、放射性廃棄物処理、燃焼物の懸念が高まったことから、ロスアラモス研究所の核兵器プログラムの運営に対する新しく広範囲な公的環境影響報告書も求めましょう。

マーティン・ハインリッヒ (Martin Heinrich) 上院議員

(202) 224-5521

<https://www.heinrich.senate.gov/contact/write-martin>

ベン・レイ・ルハン (Ben Ray Lujan) 上院議員

(202) 224-6621

<https://www.lujan.senate.gov/contact/contact-form/>

メラニー・スタンスバリー (Melanie Stansbury) 下院議員、第1区

(202) 225-6316

<https://stansbury.house.gov/contact>

イベット・ハーレル (Yvette Herrell) 下院議員、第2区

(202) 225-2365

<https://herrell.house.gov/contact>

テレサ・レガー・フェルナンデズ (Teresa Leger Fernandez) 下院議員、第3区

(202) 225-6190

<https://fernandez.house.gov/contact>

● 行動に役立つアイデア

- 対話に参加しましょう。家族、友人、職場の同僚、皆さんの教会の司祭、信者たちと一緒にニューメキシコにある核兵器の存在について話しましょう。
- この書簡を共有し、核廃棄のためにどのような活動ができるのか話し合しましょう。
- この書簡について話し合うために、教会の信者たちと夕食会（オンライン上でも）を開きましょう。
- ニューメキシコや地球上のあらゆる場所で、核兵器廃棄のために日々祈りましょう。
- 生物化学兵器禁止条約に似た核兵器禁止条約に支持を表明しましょう。
- フランシスコ教皇の最近の回勅『ラウダート・シ ーとともに暮らす家を大切に』と『兄弟の皆さん』を読んで勉強しましょう。教会で勉強会を始めましょう。
- 暴力を減らし平和を作り出す人になれるように、イエスの非暴力について日々勉強し、練習しましょう。
- 教会の司祭に、信者たちの祈りに核兵器廃棄と世界平和のための祈りを含ませるよう要請しましょう。
- 核廃棄のための大衆的な平和祈念の集会を開きましょう。
- ロスアラモスとサンディア国立研究所で働く人々に、核戦争を準備することにこれ以上参加しないよう職業を変えることを考慮するよう要請しましょう。
- 若者たちに平和と非暴力に対する福音を教えましょう。青年たちが平和を作り出す人になるよう支援し、非暴力を実践し、より平和な世の中のために活動するよう励ましましょう。
- <https://www.icanw.org>で、2017年ノーベル平和賞受賞者である核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN: International Campaign to Abolish Nuclear Weapons）について見てみましょう。
- どこかに投資する意向があるなら、あなたの資金を意識的に使いましょう。核兵器に投資しない方法は、<https://www.dontbankonthebomb.com>を参照しましょう。
- 地域の下院議員、上院議員、州知事に連絡して、核兵器禁止条約を支持し、環境の浄化、不拡散プログラムとグリーンエネルギー雇用創出にリーダーシップを発揮するよう要請しましょう。ロスアラモス実験室の持続的な運営に対する新しい広範囲な公的環境影響報告書を要請することもできます。最後の報告書は2008年に出ましたが、その後プルトニウムピット生産の拡大、続く核安全性憂慮、そして燃焼物危険が増加するなど、多くの変化が生じたためです。

● マスメディアに市民の見解を知らせる

—ニューメキシコの一部マスコミに手紙を送りましょう。

アルバカーキ (Albuquerque):

Albuquerque Journal

<https://www.abqjournal.com/letters-to-the-editor>

カールスバッド (Carlsbad):

Carlsbad Current Argus.

<https://static.currentargus.com/lettertoeditor/>

ギャラップ (Gallup):

Gallup Independent

letters@gallupindependent.com

ラス・クルーセス (Las Cruces):

Las Cruces Sun News.

<https://static.lcsun-news.com/lettertoeditor/>

サンタフェ (Santa Fe):

Santa Fe New Mexican

https://www.santafenewmexican.com/site/forms/online_services/letter/letter_editor/

Santa Fe Reporter

editor@sfreporter.com

タオス (Taos):

Taos News

https://www.taosnews.com/site/forms/online_services/letter_editor/

付録 II

個人的省察とグループでの議論を助ける質問

(1) 「今日、戦争を目的に原子力を使うことは人間の尊厳だけでなく、共通の家が迎える未来に対する犯罪です」「戦争を目的に原子力を使うことは、核兵器を保有することと同じように不道徳です」という教皇フランシスコの言葉についてどう思いますか。

(2) イエスはどんな面で非暴力的で、それは私たちにどんな意味を持っていますか。今日、平和をつくり出す人になるということは何を意味しますか。今日、私たちはどうやって敵を愛することができますか。「イエスは非現実的な理想主義者ではなく現実主義者でした」というマーティン・ルーサー・キング牧師の言葉についてどう思いますか。

(3) ルカ福音書 9 章 54-55 節の言葉を省察してみましょう。天から地獄の火を降らせようとするヤコブとヨハネに対するイエスの戒めは、今日のニューメキシコと全世界にいる皆さんにどんな意味を与えますか。今日の核戦争の準備について、イエスは思うでしょうか。

(4) アメリカ科学者連盟の書簡で引用したように、「現在、世界は13,000個以上の核兵器を保有しており、そのうちの一部は日本に投下された二つの爆弾より100倍も強力です。約2,000個のアメリカ、ロシア、イギリス、フランスの核弾頭はいつでも使用される態勢を整えています」が、私たちはこれに対してどうすればいいのでしょうか。イエスは私たちが何をすることを望んでいるのでしょうか。フランシスコ教皇が促したように、どうすればすべての核兵器を廃棄し、核戦争の脅威を終息させることができるのでしょうか。

(5) 「アメリカ全土を含め、サンタフェ大司教区は核兵器禁止条約を支持するだけでなく、積極的に履行すべき特別な責任があります」というウェスター大司教の言葉を省察し討論しましょう。その条約をどのように効果的に支持することができるでしょうか。

(6) 「各国政府が大量破壊兵器に対する投資を皆のための教育と社会基盤施設を再構築し、環境と気候変動の脅威に対処し、特に世界的な感染症に対するワクチン接種に投資するならば、アメリカと世界市民にもっと役立つでしょう」というウェスター大司教の言葉を省察し討論しましょう。政府が生命維持に役立つところに投資するようにどのように促すことができるでしょうか。

(7) 「私たちはニューメキシコの住民たちに道徳的に問題のある核兵器の働き口以外の雇用と経済的機会を提供するために努力しなければなりません。それは正しいことだけでなく、政治的意志を発揮すれば実現可能です。サンタフェ大司教区は特にニューメキシコ州議会代表団と州知事にその目的のために継続して活動してくれるよう促しました」というウェスター大司教の言葉を省察し討論しましょう。ニューメキシコ州の住民が核兵器を作って維持する代わりに、人に役立つ新しい働き口を見つけるようにどのように助けることができるでしょうか。

(8) キリストの平和の光の中で生きるということは、私たちにどんな意味を与えますか。

参考文献

- ローズ・マリー・バーガー (Berger, Rose Marie), et. al, editors. *Advancing Nonviolence and Just Peace in the Church and the World* (Brussels, Belgium: Pax Christi International, 2020).
- ケン・ブティガンとパトリシア・ブルーノ (Butigan, Ken with Bruno, Patricia). *From Violence to Wholeness: The Spirituality and Practice of Active Nonviolence* (Pace e Bene Press, 2002).
- アイラ・チェルナス (Chernus, Ira). *American Nonviolence*. (Maryknoll: Orbis, 2004).
- エリカ・チェノワとマリア・ステファン (Chenoweth, Erica and Stephan, Maria). *Why Civil Resistance Works: The Strategic Logic of Nonviolent Conflict* (New York: Columbia Univ. Press, 2012).
- マリアン・クスmano・ラブ (Cusimano Love, Maryann), “The Papal Vision: Beyond the Bomb.” Arms Control Association. May 2020.
<https://www.armscontrol.org/act/2020-05/features/papal-vision-beyond-bomb>
- ドロシー・デイ (Day, Dorothy). *Selected Writings* (Edited by Robert Ellsberg) (Maryknoll: Orbis, 1982).
- ジョン・ディア (Dear, John). *Living Peace* (New York: Doubleday, 2000).
_____, *The Nonviolent Life* (Pace e Bene, 2017).
_____, *The Beatitudes of Peace* (23rd Pub., 2016).
_____, *The God of Peace: Toward a Theology of Nonviolence* (Wipf and Stock, 2008).
- エクナス・イスワラン (Easwaran, Eknath). *Gandhi the Man*. (Berkeley: Nilgiri Press, 1997).
- 教皇フランシスコ (Francis, Pope). 『兄弟の皆さん (*Fratelli Tutti: Encyclical On Fraternity and Social Friendship*)』
_____. 『ラウダート・シ (*Laudato Si'*; *Encyclical On Care for Our Common Home*)』
- ガー・アルペロヴィッツ (Gar Alperovitz), *The Decision to Use the Atomic Bomb and the Architecture of An American Myth* (Knopf, 1995)
_____, *Atomic Diplomacy: Hiroshima and Potsdam* (Simon and Schuster, 1965).
_____, “Did We Need to Drop It?” *New York Times*, July 30, 1995.
- リチャード・ホームズ (Holmes, Richard) ed. *Nonviolence in Theory and Practice* (Calif: Wadsworth Pub., 1990).
- マーティン・ルーサー、キング (King, Martin L. Jr). *Stride Toward Freedom* (New York: Harper & Row, 1958).
- アーサー・ラフィン (Laffin, Arthur). *The Risk of the Cross: Living Gospel Nonviolence in the Nuclear Age* (New London, CT: Twenty Third Publications, 2020).
- マイケル・ロング (Long, Michael) (ed.) *Christian Peace and Nonviolence: A Documentary History* (Maryknoll: Orbis, 2011).
- ストートン・リンドとアリス・リンド (Lynd, Staughton, & Lynd, Alice), eds. *Nonviolence in America* (Maryknoll: Orbis, 1995).

ロバート・マツケルロイ司教 (McElroy, Bishop Robert), *Colloquium on Catholic Approaches to Nuclear Proliferation and Disarmament*. Most Reverend Robert McElroy, Bishop of the Diocese of San Diego, CA participates on a panel during a colloquium organized to explore current Catholic approaches to nonproliferation and disarmament in the context of the wider religious, ethical, and policy debate.

<https://www.youtube.com/watch?v=iZVj1o3xCyI>

トーマス・マートン (Merton, Thomas), *Passion for Peace: The Social Essays*. (Edited by William Shannon) (New York: Crossroad, 1995).

マイケル・ナグラ (Nagler, Michael), *The Search for a Nonviolent Future* (San Francisco: Inner Ocean, 2004).

ヘンリー・ナウウェン (Nouwen, Henri), *Peacework* (Maryknoll: Orbis, 2005).

_____, *The Road to Peace* (Ed. by John Dear) (Maryknoll: Orbis, 1997).

The Power of Nonviolence: A Beacon Anthology (Boston: Beacon Press, 2002).

ロジャー・パワーズとウィリアム・ヴォーゲル (Powers, Roger and Vogeles, William) (eds.) *Protest, Power, and Change: An Encyclopedia of Nonviolent Action* (New York: Garland Pub., 1997).

ジョナサン・シェル (Schell, Jonathan). *The Gift of Time: The Case for Abolishing Nuclear Weapons Now*. (New York: Henry Holt and Co., 1998).

_____, *The Fate of the Earth* (Knopf, 1982).

ジーン・シャープ (Sharp, Gene). *The Politics of Nonviolent Action* (three volumes) (Boston: Porter Sargent, 1973).

_____, *Waging Nonviolent Struggle: 20th Century Practice and 21st Century Potential* (Boston: Porter Sargent, 2005).

Status of World Nuclear Forces 2021, Federation of American Scientists,

<https://fas.org/issues/nuclear-weapons/status-world-nuclear-forces/>

米国カトリック司教協議会 (United States Conference of Catholic Bishops). *The Challenge of Peace: God's Promise and Our Response. A Pastoral Letter on War and Peace*, May 3, 1983.

<https://www.usccb.org/upload/challenge-peace-gods-promise-our-response-1983.pdf>

米国カトリック司教協議会 (United States Conference of Catholic Bishops). *The Harvest of Justice is Sown in Peace*, 1993.

<https://www.usccb.org/resources/harvest-justice-sown-peace>

米国カトリック司教協議会 (United States Conference of Catholic Bishops). *Nuclear Weapons and Our Catholic Response: A Catholic Study Guide for Use with Nuclear Tipping Point*, 2020.

<https://www.usccb.org/issues-and-action/human-life-and-dignity/war-and-peace/nuclear-weapons/upload/nuclear-weapons-and-our-catholic-response-study-guide.pdf>

ジェームズ・M・ワシントン (Washington, James M). *A Testament of Hope: The Essential Writings of Martin Luther King, Jr.* (San Francisco: Harper and Row, 1986).

ウォルター・ウイंक (Wink, Walter). *Engaging the Powers* (Minneapolis: Fortress Press, 1992).

注釈(原注)

- ¹ よく引用されるディートリッヒ・ボンヘッフアー(Dietrich Bonhoeffer)の文句。
- ² フランシスコ教皇、広島平和記念公園での演説(2019年11月24日)、
https://www.vatican.va/content/francesco/en/messages/pont-messages/2019/documents/papa-francesco_20191124_messaggio-incontropace-hiroshima.html
【邦訳】 <https://www.cbcj.catholic.jp/2019/11/24/19823/>
教皇はこの内容を2020年8月6日、広島原爆75周年に繰り返した。
- ³ 同上。
- ⁴ バチカン・ニュース「フランシスコ教皇、核兵器のない世界のために呼びかける」(2020年8月6日)、
<https://www.vaticannews.va/en/pope/news/2020-08/pope-francis-calls-for-world-free-of-nuclear-weapons.html>
- ⁵ 教皇聖ヨハネ23世、『地上の平和 (*Pacem in Terris*)』、109、112-113(日本語版では59-61)、
https://www.vatican.va/content/john-xxiii/en/encyclicals/documents/hf_j-xxiii_enc_11041963_pacem.html
- ⁶ 1965年12月7日、教皇聖パウロ6世によって発布された『現代世界憲章 (*Gaudium et Spes*)』、81
https://www.vatican.va/archive/hist_councils/ii_vatican_council/documents/vat-ii_cons_19651207_gaudium-et-spes_en.html
- ⁷ バチカン・ニュース「教皇たちと原子力の脅威:世界の良心に訴える」、
<https://www.vaticannews.va/en/pope/news/2021-01/the-popes-and-the-atomic-threat-appealing-to-worlds-conscience.html>
- ⁸ 1982年6月7日、「教皇聖ヨハネ・パウロ2世の国連総会演説」、
https://w2.vatican.va/content/john-paul-ii/en/messages/pont_messages/1982/documents/hf_jp-ii_mes_19820607_disarmo-onu.html
- ⁹ 米国カトリック司教協議会、『平和の挑戦 (*The Challenge of Peace*)』、196、
<https://www.usccb.org/issues-and-action/human-life-and-dignity/war-and-peace/nuclear-weapons/upload/nuclear-weapons-and-our-catholic-response-study-guide.pdf>
- ¹⁰ 米国カトリック司教協議会、『義の実は平和のうちに蒔かれる (*The Harvest of Justice is Sown in Peace*)』(1993年)、
<https://www.usccb.org/resources/harvest-justice-sown-peace>
- ¹¹ 教皇ベネディクト16世、2006年第39回世界平和の日メッセージ、「平和は真理のうちに(In Truth, Peace)」、
https://www.vatican.va/content/benedict-xvi/en/messages/peace/documents/hf_ben-xvi_mes_20051213_xxxix-world-day-peace.html
【邦訳】 <https://www.cbcj.catholic.jp/2005/12/08/2986/>
- ¹² 同上。
- ¹³ 2010年5月5日、教皇ベネディクト16世、サンピエトロ広場での一般謁見演説、
https://www.vatican.va/content/benedict-xvi/en/audiences/2010/documents/hf_ben-xvi_aud_20100505.html
【邦訳】 <https://www.cbcj.catholic.jp/2010/05/05/5607/>
- ¹⁴ 2020年2月14日、米国カトリック司教協議会の国際正義と平和委員会が出した核に関する声明、
<https://www.usccb.org/news/2020/statement-us-bishops-committee-international-justice-and-peace-committee-nuclear>

-
- ¹⁵ 『兄弟の皆さん (*Fratelli Tutti*)』(2020年10月)、262、
https://www.vatican.va/content/francesco/en/encyclicals/documents/papa-francesco_20201003_enciclica-fratelli-tutti.html
- ¹⁶ 2021年11月17日、バチカン国務長官ピエトロ・パロリン枢機卿の演説、
<https://www.vaticannews.va/en/vatican-city/news/2021-11/parolin-elimination-of-nuclear-weapons-a-moral-and-humanitarian.html>
- ¹⁷ 教皇フランシスコ、2017年1月1日、世界平和の日メッセージ、「非暴力、平和を実現するための政治体制 (Nonviolence – A Style of Politics for Peace)」、
https://www.vatican.va/content/francesco/en/messages/peace/documents/papa-francesco_20161208_messaggio-1-giornata-mondiale-pace-2017.html
【邦訳】 <https://www.cbj.catholic.jp/2017/01/01/11562/>
- ¹⁸ マーティン・ルーサー・キング 『愛の力 (*Strength to Love*)』、(Philadelphia : Fortress Press edition、1981)、p.48。
- ¹⁹ 同上、pp.47-48。
- ²⁰ 同上、p.55。
- ²¹ ロスアラモス国立研究所とサンディア国立研究所、カートランド空軍基地にある空軍核兵器センターがサンタフェ大司教区の管内にある。
- ²² 2019年11月24日、教皇フランシスコ、広島平和記念公園での演説、
https://www.vatican.va/content/francesco/en/messages/pont-messages/2019/documents/papa-francesco_20191124_messaggio-incontropace-hiroshima.html
【邦訳】 <https://www.cbj.catholic.jp/2019/11/24/19823/>
- ²³ 2014年12月8日、『核軍縮：核廃絶に乗り出さなければならない時 (*Nuclear Disarmament: Time for Abolition*)』、ウィーンのジュネーブにある国連と他の国際組織に対して教皇庁が明らかにした恒久的な使命、
<https://www.wagingpeace.org/nuclear-disarmament-time-for-abolition/>
- ²⁴ 2013年6月、アメリカ国防総省、「米国核運用戦略報告書 (Report on Nuclear Employment Strategy of the United States)」、p.4、
<https://www.globalsecurity.org/wmd/library/policy/dod/us-nuclear-employment-strategy.pdf>
- ²⁵ 1メガトンはTNT(爆発性化学物質であるトリニトロトルエン[tri nitro toluene]をいう)100万トンにあたる。1.2メガトン爆弾は15キロトンだった広島爆弾より80倍も強力である。
- ²⁶ 2018年、国防総省、核態勢の検討 (Nuclear Posture Review)、
<https://media.defense.gov/2018/Feb/02/2001872886/-1/-1/1/2018-NUCLEAR-POSTURE-REVIEW-FINAL-REPORT.PDF>
- ²⁷ 2017年の連邦議会予算事務局 (Congressional Budget Office: CBO) は、2017年から2046年までの核兵器「現代化」に1.2兆ドルの費用がかかると推定した。アメリカ核軍事力管理費用 (Approaches for Managing the Cost of US Nuclear Forces)、CBO、2017年10月、要約: <https://www.cbo.gov/system/files/115th-congress-2017-2018/reports/53211-nuclearforces.pdf>。2021年から2030年までの米核軍事力の予想費用 (Projected Costs of U.S. Nuclear Forces) アップデートでCBOは、第1段階の10年間で推定費用を28%引き上げたが、比率を指定できなかった理由は、現代化努力が加速したことで、さらに費用が多かかった年度が含まれ、増加分の4分の1はインフレのためだと言及した。14%増加を1兆2千億ドルに適用すると1兆3600億ドルである。同時にCBOは、実質的な不確実性の多いプログラムに対する未来計画がまだ完全に決まっておらず、計画が完全に決まっても費用が不確実だという事実に起因するという点に注目した。例えば、プルトニウムピット生産工場の費用推定値は最近110億ドルへと倍増した。アメリカの核兵器の現代化に1兆7千億ドル以上の費用がかかるという事実に全般的な同意がなされている。

-
- ²⁸ ガー・アルペロヴィッツ(Gar Alperovitz)、『The Decision to Use the Atomic Bomb and the Architecture of an American Myth』(New York: Knopf, 1995)と『Atomic Diplomacy: Hiroshima and Potsdam』(New York: Simon and Schuster, 1965)、「Did We Need to Drop It?」(New York Times, 1995年7月30日)も読んでほしい。
- ²⁹ 2022会計年度、エネルギー省、「研究所表(Laboratory Tables)」、pp.44-46、
<https://www.energy.gov/sites/default/files/2021-06/doe-fy2022-budget-laboratory.pdf>
- ³⁰ ロナルド・レーガン大統領、1984年の一般教書演説、
<https://www.youtube.com/watch?v=-gzg9TMSBBk>
- ³¹ アメリカ科学者連盟「世界の核戦力現勢2021」
<https://fas.org/issues/nuclear-weapons/status-world-nuclear-forces/>
- ³² 上院労働および人的資源委員会での聴聞会、第101回議会、第2セッション(1990年)、V・E・アーチャー(V. E. Archer)の証言。
- ³³ 「労働者の健康障害を補償する制度(EEOICP)プログラム統計」、労働省労災補償プログラム室、
<https://www.dol.gov/owcp/energy/regs/compliance/weeklstats.htm> と
https://www.dol.gov/owcp/energy/regs/compliance/statistics/WebPages/ALBUQUERQUE_OPS.htm
- ³⁴ 『G領域是正措置評価(Area G Corrective Measures Evaluation)』Rev3(150MB)、LA-UR-11-4910、p.G-9、ロスアラモス国立研究所、2011年9月、
<https://permalink.lanl.gov/object/tr?what=info:lanl-repo/epr/ERID-206324>
- ³⁵ 今後蓄積されていた汚染物質が飲料水源に到達するにつれ、数十年から数百年にかけて追加的な場所で汚染が発生すると予想される。ロスアラモス国立研究所のバハリート高原の水質学的研究(1998-2004)、pp.5-15、
<http://www.worldcat.org/title/los-alamos-national-laboratorys-hydrogeologic-studies-of-the-pajarito-plateau-a-synthesis-of-hydrogeologic-workplan-activities-1998-2004/oclc/316318363>
- ³⁶ 『放射能で汚染された空と大地(Radioactive Heaven and Earth)』、核戦争防止国際医師会、環境エネルギー研究所、1991、p.36、40、
<https://ieer.org/wp/wp-content/uploads/1991/06/RadioactiveHeavenEarth1991.pdf>
- ³⁷ この内容は『原子力監査、1940年以降の米国の核兵器費用と結果(Atomic Audit, The Costs and Consequences of US Nuclear Weapons Since 1940)』(Edited by Steven Schwartz)から出たもので、1998年に1940-1996年の費用を9兆2千億ドルで固定した(3ページ、インフレ調整済)。Atomic Auditはまた、冷戦後の年間費用を500億ドルと推算した(1ページ、浄化プログラムは除外、インフレ調整済)。27年間1兆3千億ドルが追加され、現在までアメリカが核兵器に支出した総額は10兆ドル(2021会計年度調整ドル基準)以上である。
- ³⁸ 「核戦争が気候と地球に及ぼす様々な影響の研究(Study on the Climatic and Other Global Effects of Nuclear War)」、報告書A/43/351、1998年、国連、ニューヨーク、パラグラフ24、p.16、
<http://climate.envsci.rutgers.edu/pdf/RobockAmbioNW.pdf>
- ³⁹ ニューヨーク・タイムズ「1957年にB-36がニューメキシコ州に巨大な水素爆弾を誤投下(B-36 LOOSED HUGE H-BOMB ON NEW MEXICO IN '57 ERROR)」、1986年8月28日、
<https://www.nytimes.com/1986/08/28/us/b-36-loosed-huge-h-bomb-on-new-mexico-in-57-error.html>
- ⁴⁰ 「米空軍がノースカロライナに核兵器を投下しそうなった日(The Day the U.S. Air Force Almost Nuked North Carolina)」、
http://www.unmuseum.org/goldsboro_bomb.htm
- ⁴¹ 「核戦争を阻止したヴァシーリイ・アルヒーポフ(Vasili Arkhipov)に感謝せよ」、2012年10月27日、
<https://www.theguardian.com/commentisfree/2012/oct/27/vasili-arkhipov-stopped-nuclear-war>

-
- ⁴² 「1979-80年の間、ソ連のミサイル攻撃に対する誤報で米軍戦略部隊に下された警告措置 (False Warnings of Soviet Missile Attacks during 1979-80 Led to Alert Actions for U.S. Strategic Forces)」、国家安保記録保管所、2012年3月1日、
<https://nsarchive2.gwu.edu/nukevault/ebb371/>
- ⁴³ 『世界を救った男、スタニスラフ・ペトロフ (Stanislav Petrov: The Man Who May Have Saved World)』、
<https://www.bbc.com/news/world-europe-24280831> (スタニスラフ・ペトロフの引用を含む)を参照。この物語はケビン・コスナー主演で2014年に映画化された:『世界を救った男 (The Man Who Saved the World)』、
<http://themanwhosavedtheworldmovie.com/>
- ⁴⁴ 核兵器不拡散条約 (Non-Proliferation Treaty) 第4条、
<https://www.un.org/disarmament/wmd/nuclear/npt/text>
【邦訳】 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/pdfs/B-S51-0403.pdf>
- ⁴⁵ 核軍縮: 廃絶のための時 (Nuclear Disarmament: Time for Abolition)』、教皇庁、2014年12月8日、
<https://www.wagingpeace.org/nuclear-disarmament-time-for-abolition/>
- ⁴⁶ 2017年3月23日、教皇フランシスコ、「国連の核兵器の全面廃絶のために核兵器を禁止する条約交渉会議 (United Nations Conference to Negotiate a Legally Binding Instrument to Prohibit Nuclear Weapons, Leading Towards their Total Elimination) 議長のエレン・ホホワイト・ゴメス (Elayne Whyte Gómez) 宛書簡」、
https://reachingcriticalwill.org/images/documents/Disarmament-fora/nuclear-weapon-ban/statements/27March_PopeFrancis.pdf
- ⁴⁷ 核兵器禁止条約 (Treaty on the Prohibition of Nuclear Weapons) 条文
<https://undocs.org/A/CONF.229/2017/8>
- ⁴⁸ カートランド空軍基地に活性備蓄されていると推定される核兵器数は、『アメリカ核戦力2020 (United States Nuclear Forces, 2020)』、ハンス・クリステンセンとマット・コーダ (Hans Kristensen and Matt Korda)、アメリカ科学者連盟 (FAS)、原子力科学者会報、
<https://www.tandfonline.com/doi/pdf/10.1080/00963402.2019.1701286>
国別の核兵器数は、世界の核戦力現勢2021、アメリカ科学者連盟、
<https://fas.org/issues/nuclear-weapons/status-world-nuclear-forces/>
- ⁴⁹ エネルギー省、2022会計年度議会予算要請事由書、「州予算表」と「実験室予算表」を参照。
<https://www.energy.gov/cfo/articles/fy-2022-budget-justification> と
<https://www.nmdfa.state.nm.us/wp-content/uploads/2021/01/FY22-Executive-Budget-Recommendation.pdf>
- ⁵⁰ エネルギー省、2022会計年度議会予算要請事由書、「実験室予算用」、「プルトニウム現代化」、p.44、
<https://www.energy.gov/cfo/articles/fy-2022-budget-justification>
- ⁵¹ 『G領域物質処理に対する是正措置評価報告書 (Corrective Measures Evaluation Report for Material Disposal Area G)』C技術領域54、改訂3、ロスアラモス国立研究所、2011年9月、
<http://permlink.lanl.gov/object/tr?what=info:lanl-repo/eprr/ERID-206324> (大容量注意:13MB)
- ⁵² 「複合変換追加プログラムによる環境影響の説明に対する最終補足分析 (Final Supplement Analysis of the Complex Transformation Supplemental Programmatic Environmental Impact Statement)」、国家核安全保障局、2019年12月、p.65、
<https://www.energy.gov/sites/prod/files/2020/01/f70/final-supplement-analysis-eis-0236-s4-sa-02-complex-transformation-12-2019.pdf>
- ⁵³ 例えば、『ホルテック・インターナショナル社による使用済核燃料と高レベル廃棄物の統合型中間貯蔵施設のライセンス申請に対する環境影響陳述書 (Environmental Impact Statement for the Holtec International's License Application for a Consolidated Interim Storage Facility for Spent Nuclear Fuel and High Level Waste)』—論評のための報告書草案 (NUREG-2237)、米国原子力規制委員会、
<https://www.nrc.gov/reading-rm/doc-collections/nuregs/staff/sr2237/index.html>

- ⁵⁴ 「1958年、ニューメキシコ州の一人当たりの個人所得は全国平均の90.4%にとどまった。2020年には約77.9%だった」。ニューメキシコ州対合衆国比較動向報告書：一人当たりの個人所得、1958-2020、
https://united-states.reaproject.org/analysis/comparative-trends-analysis/per_capita_personal_income/reports/350000/0/#page_4
- ⁵⁵ 『ロスアラモス国立研究所の経済的・財政的影響 (*The Economic and Fiscal Impact of Los Alamos National Laboratory*)』、ニューメキシコ大学ビジネス経済研究局 (UNM BBER)、2020年8月21日、
<https://nukewatch.org/newsite/wp-content/uploads/2021/02/LANL-Economic-Impact-Presentation-08-17-20.pdf?x68309>
- ⁵⁶ 『核軍縮：廃絶のための時』、教皇庁、2014年12月8日、
<https://www.wagingpeace.org/nuclear-disarmament-time-for-abolition/>
- ⁵⁷ アメリカ新聞編集者協会 (ASNE) での演説、「平和のための機会 (Chance for Peace)」、1953年4月16日。
- ⁵⁸ 『核軍縮：廃絶のための時』、教皇庁、2014年12月8日、
<https://www.wagingpeace.org/nuclear-disarmament-time-for-abolition/>
- ⁵⁹ 2019年11月24日 (日)、長崎・爆心地公園、核兵器についての教皇メッセージ、
https://www.vatican.va/content/francesco/en/messages/pont-messages/2019/documents/papa-francesco_20191124_messaggio-arminucleari-nagasaki.html
【邦訳】 <https://www.cbcj.catholic.jp/2022/01/06/23820/>
- ⁶⁰ ブレット・ヘンドリックソン (Hendrickson, Brett)、『サントウアリオ・デ・チマヨの治癒力：アメリカの奇跡教会 (The Healing Power of the Santuario de Chimayo : America's Miraculous Church)』、(NYU Press、2017年8月1日)、p.159と<https://pluralism.org/easter-pilgrimage-to-chimay%C3%B3>
- ⁶¹ 教皇フランシスコ、『ラウダート・シ (*Laudato Si': On Care for Our Common Home*)』、25、
https://www.vatican.va/content/francesco/en/encyclicals/documents/papa-francesco_20150524_enciclica-laudato-si.pdf
- ⁶² エネルギー省、2022会計年度州予算表、p.53、
<https://www.energy.gov/sites/default/files/2021-06/doi-fy2022-budget-state.pdf>
- ⁶³ ニューメキシコ州で通過した100%クリーンエネルギー法案 (*New Mexico Passes 100% Clean Energy Bill*)、ノア・ロング (Noah Long)、自然資源防衛協議会 (NRDC)、2019年3月13日、
<https://www.nrdc.org/experts/noah-long/new-mexicos-energy-transition-heads-governor>
- ⁶⁴ 全文：教皇フランシスコのクリスマス祝福 (*Urbi et Orbi*) 2021、
<https://www.thecatholictelegraph.com/full-text-pope-francis-christmas-urbi-et-orbi-blessing-2021/78876>
【邦訳】<https://www.cbcj.catholic.jp/2022/01/06/23820/>
- ⁶⁵ ジェラード・マンリ・ホプキンス (Hopkins, Gerard Manley)、「神の偉大さ (God's Grandeur)」、『ジェラード・マンリ・ホプキンス』(キャサリン・フィリップス編)、(New York : Oxford University Press, 1986)、p.128。
- ⁶⁶ 『ローマミサ典礼書 (Roman Missal)』の英語訳本 (©典礼法人英語国際委員会、2010年) より抜粋。

翻訳・監修

カトリック北東アジア平和研究所 (Catholic Institute of Northeast Asia Peace)

http://www.pu2046.kr/sub17_01.php

イエズス会社会司牧センター (Jesuit Social Center Tokyo)

<http://www.jesuitsocialcenter-tokyo.com>

初版：2022年8月6日 ～人類が核兵器を使用した77周年の日に～